(1) 明治維新期史料

(a) 維新と松尾藩、木更津県、千葉県の成立

幕末、維新の動乱を経て明治二(一八六九)年に掛川藩(静岡県)太田氏が移封され、芝山藩(のち松尾藩)は成立した。当地域にとって初めての本格的大名支配であり、僅かな期間であったが、大きな変化であった。当地には、松尾地区を中心に旧掛川藩松尾藩士族の子孫が多数おり、関係文書も所蔵している。

並木安右衛門は幕末には求名村名主、維新期には戸長を勤めており、この激動の時代の記録（御用留、廻状留等）を克明に残している。これだけまとまっているものは貴重である。さらに明治四年十一月木更津県、明治六年六月千葉県が成立し、行政も目まぐるしく変化するが、安右衛門の長子角太郎は求名村用掛として、明治七年から十五年にかけての「御用記」（壱番～十七番、但し七番欠）十六冊にこの時期のことを克明に記録している。紙面の都合で僅かに「壱番～弐番」の一部を紹介した。

【史料1】阿部邦之介御触書（竪冊）

御政事向之儀者天下万民農業商売等安心ニ為致父母妻子むつましく銘々其土地ニ安住為致候ため之　御政事ニ而公辺ニ而茂御気随ニ被仰出候事ニ者無之候得共追々被　仰出候御良法も年久敷相成り候得者自然弊を申者生し良民品々難義も有之哉ニ相聞　上様ニ茂深く御心配被為在、此度自分共江被　仰付百姓共迷惑筋取調申立候様被　仰付候間、是迄被仰出相成居候御政事ニ而も百姓共不弁利之儀者御改メ相成又者農間諸商売之義其外些末之事迄とも百姓共都合相成候義者速々被仰出　公辺御仁恵下々江貫キ百姓共存居　公辺江通シ上下一和一身水魚之如ク親ミ苦楽利害上下同様被成度と之御趣意被仰含候得共、自分義不肖ニして民家苦楽利害之事ニ暗く御深重之　御趣意末々江貫不申候義深く致心配候間、村々迷惑筋御有益并ニ村々助成利害商売等之儀ニ付見込之品有之もの者小前末々迄茂無遠慮可申立候、其土地便利ニ随ひ諸事者取調之上直ニ下知致し可申、大事者伺之上百姓難義不致様取計ひ遣可申候、たとへバ昨卯年中酒造高四分一作五拾石以下休造等之儀被　仰出候処、株主共品々難義も有之哉ニ相聞候間、丸高酒造致度者且作年中酒造新株相願候者も其土地便利相成り故障無之を者取調伺之上御差免し可相成候間、今一応願出可差出事

但古株丸高酒造相願度者者株主共名主罷出不及候、最寄々々一両人惣代若願出不苦候

一前件見込有之申立度者者差添人ニ不及其村々名主并ニ組合村大小惣代之添書持参壱人ニ而罷出不苦候、諸願事者其村々役人之内壱人差添并組合村大小惣代之添書持参致し願可出候事

一組合村々大小惣代共印鑑壱枚宛差出し可申、尤銘々持参ニ不及都合次第書面を以可差出候、右之条々廻村之上逸々可申達之処、御用向ニ而時々出府廻村行届き兼候間、先以書面申達条村々小前末々迄不洩様可相触者也

辰三月

上総国夷隅郡
若山村蔵屋敷住
阿部邦之助 印

上総国山辺郡
組合村々

大小惣代中

上様御事　朝廷江被為対御恭順道被為尽上野山内江御退去御護鎮中ニ付村々諸事穏便者静ニ可致候

一御恭順中自然一揆強盗蜂起村々騒立候而者御恭順之御素意ニ戻り、其上良民共難義為致候儀深御配慮被為在自分并ニ信太歌之介江房総鎮静御用被　仰付候間、万一一揆強盗蜂起之節者領主地主ニ而鎮静方行届候ハヽ格別自然行届キ兼候ハヽ両人之内其最寄都合次第可訴出候、速々取静方手配致し可申候

一同断之節自分共江訴出候ハヽ速々手配ハ致し候得共遠方懸隔り候ニ而者急速之手配行届キ兼一日半時ニ而も良民難義為致候義甚々心配致し候間、組合村々申合兼而右様之節者手配其土地便利共互ニ申合取静方致し置、若手余り候節者打殺候而も不苦候、其上ニ而土地都合次第訴出候ハヽ早速出役致し村々手数不相懸手軽事済候様取計ひ可申候事且取締之義ニ付際立骨折候者江者伺之上御褒美も可被下候条可申立候

一前文之通一日半時茂良民難義為致候義深心配致候、就而者村々之内領主地頭ゟ手配有之分者格別其外者組合村々篤と申合農兵取立非常之手配致し候、別而都合之事ニ者候得共農業繁雑之折柄殊ニ入費も相掛り村々迷惑も可有之哉ニ付強而申諭候者ニ者無之哉、自然農兵立度向者見元之者共先立小前末々多分之難義不相懸様且稽古等も可成丈農業妨不相成様工夫致し農兵人数仕法等取調可申聞、一応公辺江申上其後之手配等も可申達候、尤右農兵者　公辺御都合相用ひ相成り候義ニ者無之、往道筋者別而前村々取調銘々身家安全之官ニ候条厚勘考可致候

右之条々廻村之上逸々可申達之処御用向ニ而時々出府急々廻村行届キ兼候間、先以書面ニ而小前末々迄も不洩様可申達候

上総国夷隅郡
若山蔵屋敷住
阿部邦之輔

上総国山辺郡
組合村々
大小惣代中

（目録番号C6）

【史料2】　御触書、申諭（竪冊）

触書

一此度房総鎮静方　御委任被　仰付候御趣意者近来悪党共在々所々徘徊致し人民及難義ニ候趣相聞、仍而ハ右等之徒有之候ハヽ早々可申出速ニ鎮静安心ニ家業相成候様致可遣候間、右之条村々小前末々迄不洩様可申聞候

房総三州鎮静方

慶応四辰年　信太歌之介　印
三月

安房上総下総
名主　組頭
小前末々迄

申諭

房総辺不穏良民難渋ニ及候哉之趣ニ付此度三ヶ国鎮静方御委任被　仰付

候間其方共江申諭候義者三百年之間父母妻子養育いたし安穏ニ家業相続仕来御国恵之厚きを誰か忘失すへけんや故当時ニ至候而者猶更男子たるもの忠儀報恩之志なけんはあるへからず、草莽有志のものども一和度良民難渋ならざる様いたし遣度に付、右厚く相心得寄場役人大小惣代の者者愈忠儀の心を与し可申候、依而者其村迄押込却奪致し候もの亦者人心を騒立候の徒立廻り良民の害に相成候ハヽ銘々御国恩相弁候者共早速出張面々所持之器械等勝手次第相携急速鎮静の手当可被致、若亦不法ニ手向ひ等致し手余り候ハヽ打殺切殺候而鎮静方廻村先江相届候得は少も難義不相成様取計可申候、且亦其節壱番二番之功有り候者は御褒美として金何両宛手疵を受候もの者村役人見分之上手当金を一同相談之上兼而相定置可申出鎮静方ニて取計可遣、且其節討死致し候もの者御委任場所三ヶ国より父母妻子養育手当可為致候間厚く相心得可申、若衆人に抽て大功相立候もの者廻村先可申出、早速其地へ罷越取計ひ可遣候間、此段村役人共厚相心得小前末々迄不洩様能々可申聞得其意候、村々共承知印取之最寄廻村先へ可被申出、若又御国恩を忘却致忠儀の志無之今般之御趣意を軽し民心動揺為致良民の憂を欣ひ候者は三ヶ国探索者ともより告来候ハヽ一応吟味之上急度可被為所厳科、亦良民共之中より御国恩を弁ひ誠心を抽て候者は後日廻村の砌武器等も相渡し、尚又功の大小により其筋へ申立夫々身分取立可遣候間大小惣代村役人小前末々迄も可被得其意候

辰三月

（目録番号C6）

【史料3】諸用留（横冊）

関東御出役様ゟ御廻状

一去月十一日附ニ而高札場又者村役人宅前江張置可申旨を以差出し置候触書之儀、当節御恭順被　仰出候儀ニ付、右触書張置候分者取入候様組合限村々江不洩様可申通候、此触村名下江令請印刻付を以順達留りゟ吉田鄰助方江可被相返候、已上

関東取締出役　印

辰三月七日

右之通御廻状ニ御座候間、其旨相心得此廻状早々順達留りゟ御返し可被成候、已上

東金町

大惣代

名主　平左衛門

同　弥左衛門

田間村始
松之郷村
道庭村
家ノ子村
姫島村
求名村
菱沼村
前之内村
二又村
北之幸谷村

右村々役人中

田間村始　　東金町出

廻状

以廻状得御意候、然者今般江戸表御急変ニ付、当　御殿江御上様方御引移ニ相成候、依之領内為取締御代官并ニ炮術教示出役方江銃鋒隊組大勢付添夜中廻り方致し怪敷見請候もの召捕候間、無提灯ニ而通行無之様隣村組合之儀者別段之事ニ候間手違等無之様及通達候、任御内意ニ候間、右御承知之上其村ニ限り御達置被下度、此廻状御順達留りゟ名主弥左衛門方江御序之節御返却可被成候、已上

辰三月十一日　　東金町

名主　平左衛門

同　弥左衛門

田間村

拾郷

右村々役人中

（目録番号A36-2-3）

【史料4】御用留(抄)
(竪冊・表紙)

慶応四戊辰年
御用留
三月五日　年番安右衛門

関東取締御出役様ゟ御廻状写

一去月十一日附之高札場又者村役人宅江張置可申旨ヲ以差出し置候触書之儀、当節御恭順被　仰出候義ニ付、右触書張置候分者取入候様組合限村々不洩可申通候、此触村名下江令請印刻附ヲ以順達留りゟ吉田郷助方江可被相返候、以上

辰ノ三月七日　　関東御取締　印

右之通御廻状ニ御座候間、其旨相心得此廻状早々順達留りゟ御返し可被下候

東金町大惣代

名主　平左衛門

同　弥左衛門

田間村始メ松之郷村道庭村家之子村姫島村
求名村菱沼村前之内村二又村北之幸谷村

右村々役人中

廻状　　田間村始メ　東金町出

以廻状得御意候、然者今般江戸表御急変ニ付当　御殿江御上様方御引移ニ相成、依之領内為取締御代官并ニ炮術教所出張方江鋭録組大勢附添夜中廻り方致し怪敷見請候もの召捕候間、無提灯ニて通行無之様隣村組合之儀者別段之事ニ候間手違者無之様及通達候、任御内意ニ候間右御承知之上其村々限り御達置被下度、此廻状御順達留りゟ名主弥左衛門内方まで御序之節御返却可被成候、已上

辰ノ三月十一日　　東金町

名主　平左衛門

同　弥左衛門

田間村拾郷

右村々名主中

鎮静方附属
伊志田浜次郎

求名村
役人中
御用

其村方組頭九郎右衛門義者兼而　殿様武芸御門人ニ付処鎮撫并ニ外門人世話心得申付候間可被得其意候

総房方面鎮静方
御委任軍事御取締
信田歌之助
附属　伊志田浜次郎　印

求名村
役人中

（目録番号R5）

【史料5】　信太様ゟ廻達之写（竪冊）

今般鎮静方人数抔と申偽金銭抔劫奪ニ及候徒有之哉ニ承り以之外之義ニ付、鎮静方御趣意之義者村々兼而申諭候条承知可有之候得共、尚亦右等之徒徘徊致候ハヽ不取敢召捕可申、若手余り候節者切殺シ候とも不苦候、且此上鎮静方人数通行之節ハ左之印鑑相渡置候間引合之無相違者無滞止宿等致可申候、尤右印鑑所持之者ニ而も金銭等強談申掛候欤亦者自己之暴威ヲ逞致候者者鎮静之主意相反候義ニ付兼而申諭置候通村々ニ而早速召捕切殺候而も聊不苦候、右之条大小惣代ゟ組合村々小前末々迄不洩様早々可被申聞候、以上

総房三州鎮静方
御委任　信太歌之助　印

辰四月七日

右印鑑写置之村々江相渡控へ引合可申候

総房寄場村
大小惣代中

以廻章致啓上候、初夏之節各様愈御荘栄珍重奉存候、然者此度鎮静方偽せ役之者共所々押借り強談致良民ヲ為悩候ニ付、今般房総三州鎮静方信太歌之助様ゟ別紙御達面之通り被　仰渡候間、御組々右印鑑写取組合村々役人中へ壱枚ツヽ渡置御達書之通御取計可被下候、廻状早々順達留御組ゟ聿之助方江御返却可被下候、以上

辰四月十五日

上総国武射郡成東村
大惣代　聿之助　印

（目録番号R44-1）

【史料6】会計方御達（竪冊）

会計方御達書之写

追而遠方村々ニも有之候間、当月十六日ゟ廿九日迄と相触候得共差急候ニ付、右日限ニ不抱此触書相達次第早々持参可相納候

高百石ニ付白米三俵ツヽ　　但シ四斗入
一金三両ツヽ

右之通りニ付米金共当月十六日ゟ廿九日迄無相違差出候様、其節一村限高証書相添品川宿官軍賄所江持参相渡可申候、尤此方ニも右証書者同様

相達可申候、且遠村等ニ而正米運送難渋之向ハ時之相場ヲ以右代金納ニ而も不苦候、尤右者追而従　朝廷御下ケ金ニ相成り其節者相当之歩金ヲ付御下ケ被遣候間左様相心得可申候、尤組合村々江者親村ゟ相触廻状村下江令請印刻付ヲ以急速順達留り村ゟ此方へ可相返者也

東海道先陣
総督府附
会計方　印

四月十五日

上総山辺郡東金町
外弐九ヶ村役人

会計方御達進触之写

今般官軍兵粮賄ニ付米金差出候趣追而利足ヲ付従天朝御下ケ被遣候段先般村々江相触置候処、右者此方ニおゐて金子調達いたし候ニ付最早差出ニ不及候条、此旨左様相心得此段其方共ゟ不用相触可申候、尤一村限高附証書を此方へ達書可申事

東海道先鋒
総督府附
会計方　印

上総国武射郡山辺郡
村々役人

尚以先此触書者早々此方江差込可申候事

其組合内求名村九郎右衛門江為所鎮撫周旋方ニ召仕候間、其段組合村々江不洩様可被申達候、以上

総房三州鎮撫方
御委任
信太歌之助　印

辰四月廿日

東金町
大小惣代
寄場役人中

以廻状申達候、此度江戸表ゟ御旗本衆御家人衆多人数当地江一足引上ケ相成候得共、右者御変革之義ニ付之事故百姓共決而驚キ不申様可致、尤頭取締役附添居候ニ付乱妨ケ間敷義決而無之候間一同安心可被致候、以上

総房三州鎮静方
御委任
信田歌之助　印

辰四月

上総国望陀郡周准郡
天羽郡
右村々寄場
役人中

尚組合村々江者不洩様可申聞候

（目録番号C6-8）

【史料7】廻状綴

(1)　廻状　　東金町

田間村始二又村留

以廻状得御意候、然者今般　官軍総督会計方ゟ具食御賄向ニ付
高百石ニ付
白米　三俵　　但四斗入
金　三両　宛
右者品川宿官軍賄所江来ル廿九日迄無相違持参可致其節村高証書可差出
旨御達書を以被　仰付候、其外御相談申度儀有之候間壱ヶ村名主中印形
御持参明後廿三日名主弥左衛門方迄御出張可被成候、此段得御意度廻状
早々御順達留りゟ御返却可被成候、以上
猶々禁裏御守御役人当十四日被相越候間先条之通当組合請分蒼龍丸三百
五拾服被差置候間、昨年之振合を以御渡可申候間代金御用意御引替可被
成候、以上
辰四月廿一日　　東金町
名主　平左衛門
同　弥左衛門
田間村　松之郷村
道庭村　家ノ子村
姫島村　求名村
菱沼村　前之内村
北之幸谷村　二又村
右村々
御役人中

(2)　廻状　　明治元年
今般脱賊共西上総筋江立廻り良民及難儀候間諸藩以兵隊追役候条、万一
打洩候輩者組合村々江致潜居候哉も難計、右等之儀有之候ハヽ無手抜致
取締可召捕、且手余り候ハヽ打殺候共不苦候、若等閑之儀於有之者可為
曲事もの也
知県事役所
辰九月十四日
前条之趣組合村々小前末々迄無洩落早々可申聞候
追而此廻状村下江令請印刻付を以早々順達留ゟ可相返候
大小惣代
寄場役人

（目録番号A32-25）

【史料8】廻状綴

(1)　廻状　　東金町
田間村始メ
以廻状得御意候、然者今般　信田歌之助様富田村江御逗留御用之趣ニ
て罷出候処、当組合ニおひて悪党共召捕方手配之義手薄之様相聞入候
間、組合村々早々相集厳重ニ取極可申旨被仰聞候間、三月中御廻村御
口達後儀定取極有之、猶又去ル廿三日も村々打寄候ニ付夫々手配仕置
候旨申上候処、信田様御利解ニ者拙者共為筋ニ而無之其村々良民之災
を相除キ候為ニ種々心配罷有候儀之処、兎角等閑之風聞ニ付而者先頃
儀定有之候共尚又村々集会之上何村ニ而者竹鑓何本本鑓何本鉄鉋何挺
用意有之候ニ而申処一村限り委敷取調其外手配筋ケ条書相定差出可申
旨被申付候ニ付、明日参会相触可申之処、台方村半左衛門当村弥左衛
門両人兼而申上候通り明廿七日品川宿江罷出候ニ付、帰宅之上右用向

御演舌会仕度奉存候間、其已前急速村々厳重御手配被成置趣意書等者御考江置可被成候、此段得御意且廻状早々御順達留りより御返却可被成候、以上

辰ノ四月廿七日　　東金町
名主　平左衛門
同　弥左衛門

田間、松之郷、道庭、姫島、求名
前之内、菱沼、二又、北之幸谷
右村々
御名主衆中

(2)

廻状

廻状　　東金町
田間村始

以廻状得御意候、然者去ル四日撤兵様　駒沢善三郎様大網村御旅宿ゟ御用状を以当組合村大小惣代江急御用之趣ニ付田間村名主庄作当町組頭喜兵衛両人惣代として差遣候処、無拠御頼筋有之ニ付御相談仕度其外先月中　信田様ゟ被仰付候悪党共召捕方手配筋等品々御談示申度義御座候ニ付村々御名主中御壱人ツヽ無御名代明九日朝飯後早々当町組頭嘉平次方迄御出張可被成候、且廻状早々御順達可被成候、已上

辰閏四月八日　　東金町
名主　平左衛門
同　弥左衛門

田間村拾郷
右村々
御名主衆中

尚々下宿之義上宿町和泉屋庄助方江申付早出候間左様御承引被下候、
以上

（目録番号A32・2）

【史料9】十ヶ組議定書写（竪冊）

取極書之事

今般総房鎮静方信太歌之助様阿部邦之介様ゟ被仰渡候御趣意茂有之ニ付而者当二月中集評議定ノ通り弥以気弛無之様組合限小前末々迄可申通事
一不法狼藉之者差押候節者組合高ニ応日割ヲ以いたし置取計方者十ヶ組集評之上其筋へ申立可致処置候事
一同断之節自然手余り打殺候ハヽ隣組立会之上仮埋いたし置其筋へ可申立事
一違変有之節者地元村ニおいて太鼓半鐘等取交打放候ハヽ最寄梵鐘半鐘等請続非常人足之者者得物を携馳集可申事
但し鎮静およひ候節者地元村ニて太鼓計打放隣村ニて請打候ハヽ途中出張之者等地元迄馳付ニ不及其侭引取可申候事
一遠国徘徊之旅博徒組合村々博奕筋へ携候者方ニ参り突合銭等貰請数日滞留致居折ニ触れ押込盗賊等之所業ニ及畢竟組合内ニ博奕筋へ携候者有之故之義ニ付、向後旅博奕共止宿為致候者勿論博奕へ携其日ヲ経営いたし候者者十ヶ組集評之上急度取計可申事
一十ヶ組之義先年ゟ御締向一般ニ申合来夫々議定取究等種々有之、乍去経年ニ随ひ自然流弊いたし候哉ニ付、以来毎年二月中壱度ツヽ集合之

上前々申合議定不相弛様可仕、尤此雑用先例之通り割合可申其余御締
向ニ付臨時集会入用者都而十ヶ組高割之事
右者両総十ヶ組寄場役人大小惣代集評之上取極打返無御座組合限り小前
末々迄申通シ請印取之無違失様取計可申、依之集評役人連印如件
取極書
近頃銭相場追々引下ケ文久銭四銭等融通不相成趣、右者其筋ゟ被仰出モ
無之処、奸商之徒自己勝手を以相場相立候ゟ自然不融通ニ相成小前末々
迄及難渋候ニ付、今般十ヶ村集評之上左之通相場取極候
当百銭
金壱両ニ付　拾貫文　目当
文久銭
鉄四銭　拾六貫文
文久壱銭五文鉄四銭弐文五分ニ当る、当百銭相場高下応シ文久鉄四銭
凡相場可相立事
右者当今御時節恐入候得共下々及難渋候ニ付相場高下者格別融通為致度
当分之内相場取極候義ニ者候得共以来自己勝手ヲ以相立候義為致間敷候、
依之集評之上取究申候処如件
（目録番号C6-7）

【史料10】廻状
廻状　別帳相添　東金町
田間村始
以廻状得御意候、然者当月四日犢橋村ゟ御越之御人数御継立を始御勅使
様其外御警衛御人数様御休泊御継立等ニ付其御村々多分之人馬御差出し
被下御苦労千万ニ奉存候、右ニ付而者諸雑用品々不足金有之猶村々ゟ御
差出し被下候夜具損料人馬賃銭割等三十村集会之割合可仕筈之処、農繁
之折柄ゆへ一昨廿三日小組親郷惣代衆一同打寄相談之上別紙之通り割合
仕候間、其御村々御出金分乍御苦労来月十日限り名主平左衛門方迄御持
参可被下候、其節帳合向御熟読可被成候、此段得御意度、早々早々御順
達留りゟ御返却可被成候、以上
東金町
名主　平左衛門
同　弥左衛門
辰ノ閏四月廿五日
田間村
松之郷村
道庭村
家ノ子村
姫島村
求名村
菱沼村
前之内村
二又村
北之幸谷村
右村々
御名主中
覚
一金拾両三朱　御勅使様
銀七百五拾五匁三厘　御止宿入用〆
銭八拾九貫七百八十文

一金七両弐分弐朱　撒兵様
銀七十七匁五厘　佐原様
銭八十壱貫百七十弐文　浜松様
薩州様　御止宿入用
駒沢善三郎様御用ニ付
一金九両壱分　山辺郡五組合惣代共
度々参会入用〆
一金三両壱分一朱　駢
銀五十九匁　靖駢様
銭六十六貫九百十四文　台方村止宿入用
一金五両弐分弐朱　会計方村々高書上ニ付
弐貫三百十六文　出府入用分
一銭七貫文　夜具蚊家村々江相返ニ付
馬七疋相附駄ちん壱疋壱貫文ツヽ
一銭九十八貫弐百五十文　村々夜具損料分
惣〆銭ニして
九百廿七貫五百廿弐文
内
銭八拾壱貫九百五十六文　御勅使様其外御賄料御下ケ金おり
引残而
銭八百四十五貫五百七十弐文
此割高壱万八千八百七十三石ニ割
高壱石ニ付銭四拾四文九分懸り
一金三十壱両弐分三朱　御勅使様并
銭五貫六拾壱文　浜松様
佐倉様
薩州様
人馬賃銭御下ケ被下候分
此永世弐貫百四十七文五分
馬壱疋壱人者弐人積り
人足弐千九百三十七人
壱人ニ付永十文九分五厘
夜具損料　壱ツ四十八文
此租百文
蚊家損料　壱張百四十八文　但三夜分
一銭廿四貫五百六文　求名村高請分
内三貫文　夜具損料
六貫百文　人馬賃銭
引〆拾四貫九百拾五文　村方出分
慶応四年戊辰閏四月
御勅使様并　御休泊御継立入用
御警衛御人数様　組合村割合帳
田間村始　東金町

（目録番号A29-6）

【史料11】廻状
（横冊・表紙）

辰五月

廻状　　東金町

田間村始

以廻状得御意候、然者房総鎮静方阿部邦之助様御家来石井徠司様御止宿入用当四月中割合之上御出金□□処其後両度御尋有之、猶当月七日ゟ副総督府様ゟ御用高石取調として白井忠蔵様廿二日まて御逗留、右入用左之通ニ御座候間御披見之上乍毎度御出金被下度願上候、尤村々一同参会之上割合可仕筈ニ存候得共度々参会ニ而者入用而已相懸り可申、且農繁之折柄ニも御座候間当町ニ而割合帳面向委敷相認差上申候間、其御村々高当り分来ル六月五日迄ニ名主弥左衛門方迄御持参可被下候、帳面向之儀其節尚又委敷御咄し可申上候間宜御承引可被下候、此廻状不留置御順達留りゟ御返却可被成候、以上

辰五月廿八日　　東金町

名主　平左衛門

同　弥左衛門

覚

辰五月六日ゟ九日迄　鎮静方石井徠司様御用向ニ付

一金弐両壱分　道案内人とも休泊入用〆高

玉川忠兵衛払

四月廿五日六日

一同壱両壱朱　御同人様御上下五人御休泊分

壱貫七百文　つたや庄兵衛江払

閏四月廿六日

一同壱両ト　御同人様上下四人御休泊分

六百文　つたや庄兵衛江払

内

弐貫八百文　木銭米代御下り分入

一残而

金三分ト五百四十八文

閏四月九日　信田様府属石田浜次郎殿御泊り

一金弐朱ト百文　つたや庄兵衛払

五月十七日昼ゟ廿二日昼迄

一同壱両三分弐朱ト　副総督様御入用上下御泊り五日

弐貫文　御中喰五度分

内

金壱分弐朱ト　木銭米代御下ケ分入

三百四拾弐文

一四貫三百弐文　紙墨筆代

多田屋払

一金壱両ト　茶代

弐貫四百五十文　ろふそく〆

一金三両壱分三朱　詰合町役人飯料〆高

壱人壱飯金壱朱積り

外ニ酒代五貫文有之候得共町内割ニ致し相除キ申候

惣〆金拾両弐朱ト　銭相場拾弐貫文かへ

銭拾貫七百五拾六文　此永八百九十六文三分
皆永ニして
拾貫九百五拾八文八分
高壱万八千八百七拾三石
壱斗弐升ニ割
高百石ニ付
永五拾八文壱分
一永壱貫拾九文壱分　田間村
此金壱両ト弐百廿九文
一同七百五拾六文　松之郷村
此金三分ト六拾壱文
一同三百六拾四文　道庭村
此金壱分壱朱ト六百拾九文
一永六百拾八文三分　家ノ子村
此金弐分壱朱ト六百六拾九文
一同弐百卅八文八分　姫嶋村
此金三朱ト六百拾六文
一同三百拾七文弐分　求名村
此金壱分壱朱ト五拾六文
一同三百八拾九文五分　菱沼村
此金壱分弐朱ト百七拾四文
一同百七拾五分七分　前之内村
此金弐朱ト六百八文
一同弐百五拾文九分　二又村
此金壱分ト拾壱文
一同三百四拾壱文八分　北之幸谷村
此金壱分壱朱ト三百五拾壱文
〆
右村々
御名主衆中

（目録番号A29-3-1）

【史料12】御触書

（竪冊・表紙）

御触書写　弐通
東金町

以廻状得御意候、然者今般　民政御裁判所ゟ御触書并阿部邦之助様ゟ御触書共〆弐通写ヲ以相廻し候、則左之通

達書

阿部邦之助江

房総辺鎮撫為兼而知行所江罷越居候得共此度御家領之義被　仰出候趣茂有之候ニ付最早不及其儀候事

右之通被　仰出候間為心得申達候得ハ其辺組合村々順達綴致請印留りゟ若山村蔵屋鋪へ可被相返候、以上

阿部邦之助内
藍野彦左衛門

辰六月

藍野　祐三
関　三一
矢嶋　文次郎
喜多村理左衛門
中村　郡平
上総国山辺郡組合村々
大小惣代中

今般江戸鎮台江差置候元評定所之義者民政裁判所と御唱替ニ相成関八州村々公事出入諸願筋旧幕勘定奉行江申出候分取捌遣間諸事是迄通可相心得事

右之通関八州村々役人小前末々まて無洩可触知者也

辰六月廿九日

民政裁判所（印）

追而此触書元関東取締組合親村江写取組合限以刻付相廻し令請印留村ゟ民政裁判所江可相返候、以上

右之通ニ御座候間御披見之上村名下へ致請印以刻付早々御順達留ゟ御返却可被成候、以上

辰七月七日

午刻出

東金町
名主　平左衛門　印
同　弥左衛門　印
三拾ヶ村組合
右村々
役人中

（目録番号C6-1）

【史料13】柴山文平触書

（竪冊・表紙）

柴山様ゟ
御書付之写

今般此方監察兼知県事被　仰付上総国八幡宿江出張支配所於同所ニ指揮可致候間、其旨相心得万事同所江可申上候事

一天朝ゟ之御触達堅可相守、自然不心得之もの於有之者其掛り之惣代名主可為越度事

一脱賊ニ候者者勿論官軍たりとも無心押借等之儀申出候もの有之候ハヽ召捕可届出候、手向致し候もの者依時宜討取候而も不苦候事

一是迄之高札者全取除　大政官被　仰出之御高札可相掲事

一脱走体之もの又者悪行シ良民を相害シ候もの潜居罷有候ハヽ早速可罷出候、訴人江者御褒美可被下候、若又隠置候儀於露顕者家財金欠所候儀者勿論組合名主之もの江茂越度可申付事

一村々宿々役人共ゟ宗旨人別を相改下男又者食客之類其所之人別帳外之者不残取糺名前を認何方出生えもの何之何月ゟ留置候を可相届候、尤右等者尽ク追放致し候儀ニ者無之候間其旨可相心得事

　但無宿人足体之もの其所之問屋役人ゟ取調可申出候事

一浪人もの者勿論壱人たり共出生或者商売向分明不成もの者宿を貸申間

敷候、且又出生分明之者たり共二宿目ゟ以上者其所之役人承届置可申事

一鎮撫方或者取締抔と唱村方江入込候者譬大総督府之命を請たるよし申聞候共知県事之導引無之候ハヽ取敢申間鋪候、且触達之趣を申聞其所ニ留置八幡宿本陣江可相伺候、若遁去り候体於有之者召捕差出し可候事

一至急之儀又者村方役人致関係候儀者直ニ飛脚を以可申越、為其村々人足継立遅延無之様可申合置、尤日々人足集候ニ者不及候事

一旧幕領者勿論籏本知行所帰順不帰順ニ不抱全御引上ケ天朝御料と相成此方支配被　仰付候間、籏本名前之傍示杭取除御料之分傍示杭分界江可相建候事

一旧籏本帰順之もの者当分御蔵米可被下儀ニ付、当秋ゟ物成等是迄之地主江一粒たり共相与へ申間敷候、若押借等致し候輩有之候ハヽ早々可出候事

右之御条々法度申渡候条其心得可有之もの也

辰七月

監察知県事

柴山　文平

差上申一札之事

一私共村々是迄徳川籏本知行所ニ御座候処、今般　天朝御料ニ相成可為御支配旨被　仰渡御年貢其外都而御役所ゟ御沙汰次第諸事差支江無之様可取計旨、且不取締之儀無之様可致旨被　仰渡一同承知奉畏候、依之御請印形奉差上候処如件

慶応四年　　上総国山辺郡

辰八月　　東金町組合

村々其外

知県事

御役所

（目録番号A32-13）

【史料14】廻状

（竪冊・表紙）

廻状　東金町

田間村始台方村留

以廻状得御意候、然者　知県事御役所ゟ御触書順達致し候間、御書文之通御請書印帳江印形いたし日附刻付いたし早々順達留りゟ御返却可被成候、以上

八月廿日　　東金町

名主　平左衛門

同　弥左衛門

上書分

但東金町組合廿九ヶ村江

知県事

廻状　長南

役所

上総国山辺郡
東金町組合

今般武蔵国巡察并関東川々定式御普請所見分為御用横川源蔵江御勘定方附添当八月十四日江戸出立いたし候条其段可相心得候
一其組合支配所村々当辰年御年貢米之儀御米操之次第茂有之候間、当九月中ゟ御廻米江戸浅草御蔵納ニ相成り候様可取計、右申達候条得其意村下令請印其組合限り刻付を以順達可致もの也

知県事
長南役所

八月十八日

旧幕府旗下不順之もの知行村々之儀追而御所置可被　仰出候得共、当辰夏成年貢金之儀者私領引付之通相心得安房上総知県事柴山文平役所江早々上納可致もの也

民政
辰七月　裁判所　印

追而本文触之趣承知之旨別紙請印帳江村役人共印形致し無遅滞順達留ゟ知県事役所江可相返候、以上

但八月晦日御上納

右之通民政裁判所ゟ触書被相渡候間写相達候条得其意村々帰順有無相糺、不帰順之分者当八月晦日限り上納可致旨村役人共請印帳江致印形急刻付を以順達留り村ゟ上総国長南宿時分役所江可相返もの也

知県事
柴山文平

八月十二日　役所　印

東金町組合
大小惣代中

追而支配所之内七拾才以上之者早々書可出候、且孝子順孫寄特之もの并ニ極貧もの共義茂有之候ハヽ取調可書出候、以上

追而組合村之分可相返もの也

（目録番号A32-20）

【史料15】廻状綴

(1)　廻状

廻状　東金町
田間村始

以廻状得御意候、然者当十一日山辺長柄武射三郡寄場村々大小惣代江御申渡之義有之候間、八幡村仮役所鑑札寮知県事柴山文平様ゟ急差紙ニ付当組為惣代と台方村名主半右衛門殿当十九日出立御用相伺候処、大名領分之外旗本知行分一旦上地ニ被仰付候間、村高地頭性名給毎取調名主壱人ツヽ印形いたし八幡村御用先江可罷出旨被仰付候間給々名主中御壱人ツヽ印形持参明廿二日四ツ時迄当町名主弥左衛門方迄御出会可被成候、尚御口達之義も御座候間無御不参御出会可被成候、此廻状早々御順達留りゟ其節御返却可被成候、已上

東金町
辰七月廿一日　名主　弥左衛門
未刻出ス　同　平左衛門
田間村拾郷村々

尚々大小惣代之儀者別段被仰渡候儀も有之早取調帳認方御談し申度候
間、早朝ゟ御出張待上候、以上

(2)　廻状

以廻状得御意候、然者当廿二日参会村高書上帳兼而御談示申上候通り
当組惣代として台方村名主半右衛門殿八幡村へ罷出相伺昨夜帰村仕候、
右を弐冊認之内壱冊相納り候間右御承知可被成候、猶又田反別村毎取
調急々可差出旨被仰付候間、則雛形帳相廻し候間、来ル廿九日迄持参
可被成候、若雛形ニ而難決廉有之村方ハ右名主半右衛門殿方へ問合差
図ヲ請被成候様致度、且又本紙出来之上者同人方へ御持参可被成候
一御料所村々新田高共并ニ大名領分高ハ書上候ニ及不申、尤御旗本知行
所寺社領分ハ取調書上候様被仰付候
一給々名主壱人ツヽ八幡村へ罷出候義時節柄難渋之趣出役半右衛門殿ゟ
致歎願候処、給々代兼差支無之村方ハ何様ニ而も壱村壱人罷出候而不
苦旨御聞届ニ被成候間、右御承知被成候、此廻状早々順達留ゟ御返却
可被成候、以上

辰七月廿七日　　東金町
名主　弥左衛門
平左衛門

田間村始十郷村々
名主中

(3)　廻状

以急廻状得御意候、然者　知県事様　御触達御座候七拾歳以上并ニ極
貧之もの書上、猶畑方夏成今廿日迄相納候様兼々御達有之ニ付台方村
名主半右衛門殿ゟ伺相立候処、別紙雛形之通不取違様相認寄場ゟ一ト
手ニ差上候様被仰付候間、来月三日迄平左衛門方迄御持参可被成、此
廻状雛形共早々御順達留りゟ御返却可被成候、以上
追て申上候、万石以上之村方者書上ニ不及候得共廻状者継村江早々御
送り可被成候

辰ノ八月晦日　　東金町
名主　平左衛門

田間　松之郷　道庭　家ノ子
姫島　求名　菱沼　前之内
二又　北之幸谷

右村々
御名主中

(4)　廻状

知県事
廻状　役所　　上総国山辺郡
朱ニ而　大急　　東金町

其村々当辰御年貢米之内水災等ニ而正納難渋之分ハ凡分通を以石代納
ニ茂可被仰付候間、右相願度村々者此廻状披見次第早々長南御役所江
可申立、尤御廻米時節ニ茂差掛り候儀ニ付聊無遅滞可罷出候、此廻状
村名下名主令請印不限昼夜刻付ヲ以順達留りゟ可相返もの也

房総知県事
役　所　朱印

辰十月十日
朱割印

上総国山辺郡
東金町
役人

追而其村相達候間外組合村々へ其村ゟ前書之趣急速相達可致候

御請印帳

東金町
組合三十ヶ村
東金町
名主　平左衛門

十月十二日拝見酉下刻継送り仕候
是ゟ順々三十ヶ村名宛菱沼村ゟ請取

(5)　廻状

廻状　東金町
田間村始

以廻状得御意候、然者大多喜様御人数御預人引連今十二日当町御止宿明十三日大網村江御継立ニ而暁正六ツ時御出立ニ相成候間、左之通り才領相添明十三日明ケ正七ツ時新宿町名主弥左衛門方江御詰合可被成候、且人馬詰合遅刻ニ相成候而者差支候間刻限無相違御詰合可被成候、廻状早々順達留り村より其節御返し可被成候、以上

十二月十二日

東金町

役人

高百石ニ付九分五厘割

田間　下馬弐疋人足七人
上馬弐疋人足六人
松ノ郷　馬弐疋人足七人
道庭　馬壱疋人足四人
家ノ子　馬弐疋人足六人
姫島　人足四人
求名　人足五人
菱沼　馬壱疋人足四人
前之内　人足三人
二又　人足四人
北之幸谷　人足四人
右村々

御名主中

(6)　触書

此触書村継を以早々可相届候、以上

芝山村
中台村
蕪木村
田越村
冨田村

触　芝山

役所

津辺村先々

去辰御年貢米蔵詰改として近日役人差出し候間其旨相心得可申候

一御年貢金之儀御都合ニ寄村々納高之凡五分形日割之通上納可致候、尤金高少々之度々之上納ニ而難儀之伺者皆金相納候共不苦候

右之通相心得村名下江名主印形いたし早々順達留村ゟ可相戻候、以上

二月十三日　　織本兵八

来ル廿三日

津辺村
矢部村
椎崎村
木原村
森村
湯坂村
姫島村
求名村
殿台村
冨口村
小泉村
五木田村
松ヶ谷村
井之内村
本須賀村

右村々名主中

（目録番号A32-2）

【史料16】廻状

廻状　　東金町

田間村始

以廻状得御意候、然者去月廿七日廻状差出し高反別取調帳本紙出来之上者台方村名主半右衛門殿一ト手ニ持参可致処未タ持参無之村方も有之候間早々御遣し可被成候

一柴山文平様御儀当朝ゟ大多喜町江御移替ニ相成候趣ニ御座候間、来ル五日不抱晴雨半右衛門殿反別帳持参大多喜へ罷越候間、一日後六日村々一同御出張可被成候、万一遅参之村方有之大勢逗留相成候而者一同之差支江ニ相成候間、御申合右日限早朝御出立可被成候

一給々名主壱人ツヽ罷出候義兼而先般廻状差出し候通給々代兼御答問差支無之村方者何給ニ而も壱村壱人罷出候而不苦候間、右御承知之上諸事御用弁相成り候様御取計可被成候、此廻状早々順達留りゟ御返却可被成候、以上

尚々申迄ニも無之候得共印形無失念御持参可被成候

辰八月三日　　東金町

名主　平左衛門
同　弥左衛門

田間村拾郷
村々御名主中

（目録番号A30-7）

【史料17】廻状綴

(1) 長南

御役所

御触書写相廻し候間御承可被成候、以上

以廻状得御意候、然者昨夕　知県事御附属棚橋忠次郎様中山勝様当町江御止宿ニ相成り候ニ付、其御村々御取箇并当違作御切方等之儀平左衛門半右衛門ニ而内窺相立候処、是迄畑永米ニ相成り候分格別之御仁慮ヲ以永納ニも可相成り、且又御切方も品ニ寄五ヶ年平均見様し可被　仰付趣ニ候間、明後十六日雛方之通書付御持参当日朝飯後先会之通泉屋庄助方へ御集会可被成候、以上

覚(雛形略)

右者御取箇永久江相抱り候儀聊無御違失御出席相成り候様致し度廻状早々順達留りゟ御返却可被成候、以上

辰九月十四日　　台方村

名主　平右衛門

東金町

名主　平左衛門

田間　松之郷　道庭　家ノ子　姫島

求名　菱沼　前之内　二又　北之幸谷

(2) 廻状　　明治元年

廻状　　東金町

田間村始北之幸谷留

以廻状得御意候、然者長南　御役所ゟ被仰付候七十才以上極窮調并納永納方之仕訳書当三日村々御差出シ帳区々ニ而其侭相納り候様難成ニ付不残認直し候間、先帳江名前書出し候名主中御壱人印形持参明後七日名主平左衛門方へ御出張調印可被成候、且又当御年貢米納方縄俵ニ至迄是迄之振合とハ相違も可有之候間、篤と御相談之上伺相立候方可然事ニ御座候間、昼前調印相済し昼後ゟ御集評可被成、尤和泉屋方江宿申付置候間不拘晴雨御出席可被成候、此廻状早々順達留ゟ其筋江御返却可被成候、以上

辰九月五日　　東金町

申上刻出　　名主　平左衛門

田間村始十郷村々

御役人中

尚々本文乍末万石以上之村方も有之候得共乍御手数村順ニ御継送り可被下候、以上

(3) 廻状　　明治二年

急廻状　　東金町

田間村始

尚々旧冬割合仕候給合村高割其村々高請分不納之村方者同日御出張之節御持参可被成候、已上

急以廻状得御意候、然者　知県事様従　御役所御達筋品々有之候間御相談仕度候間、明後廿三日朝飯後早々名主弥左衛門宅迄御出張可被成候、委細其節御示談可申上候、此廻状早々御順達留り御村ゟ御返却可被成候

正月廿一日　　東金町

申上刻出ス　　名主
弥左衛門
平左衛門
寅上刻拝見仕候
田間村始北之幸谷留り

(4)　廻状　　明治四年
廻状　　戸長　菊地兵左衛門
副戸長　浦上甚五兵衛
殿台村始
以廻状啓上仕候、然者戸籍下調之義期日相越ニ付取調油断いたし候訳ニ者有之間敷全取入自分繁多ニ取紛度を失ひ候義ニ者可有之候得共、追而弥増繁多ニ迎ひ候時節其已前等閑無之様勉強いたし、未夕下調不差出村方ハ厳重催促之上早々取調候様御役所ゟ御沙汰有之候間、早々御差出し被下度候、右御達申上度廻状早々御順達留り村ゟ御返却可被下候、已上
未十月十六日　　副戸長　浦上甚五兵衛
戸長　菊地兵左衛門
嶋村ゟ受取
姫嶋村へ継立申候

(5)　回章
大急回章ヲ以申述候、陳者学校設立之義ニ付申談義有之候間、和田村板附村矢部村湯坂村副戸長印形持参入来可被成候、尤大急キ付此状披見次第入来可被成候、回章至急順達可被成候也

中学区取締
塚本正典
矢部
板附
和田
湯坂
姫島
求名
右村々
副戸長
村用掛衆中
湯坂村姫島村之義者兼而去十一日迄ニ可差出書面出来有事ニ持参可被成候也

（目録番号A32-25）

【史料18】廻状綴

(1)　廻状　　明治元年十一月十九日
廻状　　田間村
北ノ幸谷村始
以　廻状得御意候、然者別紙継紙之通房総　知県事御役所ゟ御触ニ御座候間、御覧之上御承知可被成候、且此廻状早々御順達被成留り村ゟ御返却可被成候、以上
辰十一月十九日　　田間村
役人共

村々
十五江
右村々
御役人衆中

当辰七月中　天朝御料ニ相成傍示杭相改等申達候処、認方区々ニ相成候義も有之不都合ニ候間、以来左之雛形之通書替可申、尤月附之丈ケ辰ノ七月と相認可申事

但本領安堵相成候旧旗本知行所之義も同様可相心得事

前　従是南北欠　房総知県事　支配所

今般蚕種生糸為取締東京府海運橋於収税局株鑑札相改候間、右渡世之ものハ村役人奥印願書を以同所江願出可申候、尤村役人差添ニ者不及候事

一旧幕旗本本領安堵被　仰付候輩者別紙雛形之通本高村高共美濃紙竪紙相認長南宿役所江来ル廿五日迄無遅滞可被差出候、其段村役人共ゟ地頭所通達可致事

一通用銭之義夫々先般御規則相立差支無之様通用可致旨兼而達有之処、未得其意者も有之哉之趣相聞以之外之事ニ候、以来右体有之おゐてハ当人ハ勿論所村役人共ニ至迄厳重可申付候間、其旨相心得小前末々ニ至迄心得違無之様役人共ゟ相達可申事

一高何程　何誰
内　高何程
高何程　同
何国何郡
何村
何国何郡
何村

右者当辰何月何日本領安堵被　仰付高村高とも前書之通ニ御座候、以上
辰月日　何ノ程

右申達候趣御料私領於村々得其意村名下江令請印廻状刻付を以順達留村ゟ可被相返者也、以上
房総
知県事
辰十一月十五日　役所　印

印刻

上総国山辺郡
真亀村
極楽寺村
大網村
東金町
田間村
右村々
役人中

追而組合村々江相達し可申事

(2)　廻状

是迄上総国埴生郡長南陣営支配有之候処、同国山辺郡宮谷村江来ル十六日転陣相成候間、於村々得其意都而諸願共同所江可申出もの也

房総知県事

辰十月十五日
酉刻出

役所　御印

上総国山辺郡
片貝村
大網村
東金町
極楽寺
組合村々役人中

追而廻状名下江刻付を以順達留り村ゟ可相返事

当十一月廿一日

知県事様御役所様ゟ御達御座候、伍長什長組合之儀其節写を以廻状差出し候処未夕申出之村方も無之、右者早々相定連印を以可申出旨被仰付候間、其御村々早々取定、来ル廿四日迄ニ親村迄御差出し可被成候、若延日之村方者無拠其旨　御役所江申立可相成候間、右御承知可被成候

(3)　廻状

房総
知県事
東京役所

其村々今般太田備中守領分相成候間得其意当辰年分物成其外可相納、村順ニ此廻状早々継立送り留り村より可被相返もの也

房総

十二月朔日　知県事
東京役所　印

上総国武射郡
森村、椎崎村、武勝、木原、稲葉、菱田、山室、取立、曽根合、於幾、横柴、猿尾、草深五木田村、殿台、新泉、親田、遠山、引越、市場、大台、本須賀、山田、津辺、下大蔵、岩山、岩山新田村、金尾、冨田、小松、宮崎、高谷、坂志岡、野中、山中、飯櫃、新堀、古和、横地、麻生新田、小川、古川、長倉、三嶋、横根、小原子、新井田新田、谷台、鵜羽山、松ヶ谷、井之内、蕪木、木戸、上横地、下横地、谷津、木戸台、鳥喰上村、鳥喰下村、中台、下武射、東加茂、西加茂、栗山、栗山村新田、新井田、求名、柴山、上吹入、下吹入、野堀、小泉、中津田、両国新田、牛熊、折戸、和田、木刀、五反田、冨口、上大蔵、柴原、北清水、五木田、中里、本柏、下野、市場、寺方、小堤、水堀、下ノ郷、嶋戸、八田、蓮沼、早船、境、朝倉、高田、牧野、住母家、真行寺、殿辺田、田越、寺崎、戸田、板川、板中新田、実門、沖渡、埴谷、横田、横田谷新田、香山新田、大堤、川崎、姫嶋、湯坂、矢部、借毛本郷、小借毛、馬渡、平野新田、
右村々役人

添状　本所相生町弐丁目
崎玉屋清兵衛

一添状啓上仕候、甚寒之砌ニ御座候処弥々各様御安栄珍重之儀奉存候、然者今程　柴山文平様御役所ゟ別紙之通り御廻状被遊御渡、則飛脚を以御達申上候、依而者御披見之上次村江早々御順達可被成旨之御請書此もの江御渡可被成候、且賃銀之儀者壱りニ付弐匁七分ツヽ御割を以

御払可被下候、先ハ御用向御達申上候、早々如此ニ御座候、以上

本所相生町弐丁目
崎玉や
清兵衛〇

辰十二月三日

森村
外御村々
御役人衆中様

(4) 廻状

廻状　東金町出

松之郷村始

急以廻状得御意候、然者　知県事様御役所来ル十五日大網村内宮谷橿林江御引移りニ相成り、右ニ付夜具御差支ニ付当組合御支配所村々ゟ当分借用申度旨、右大網村ゟ申来り候ニ付大名領并本領安堵村々相除キ御支配所村々高割を以割合差出し候間、明後十四日昼迄平左衛門方迄御遣し可被成候、廻状延刻ニ相成候而者差支之村方も有之候間、刻付ヲ以御順達留りゟ御返却被成候、以上

辰十二月十二日　東金町
酉上刻　名主　平左衛門

松之郷　道庭　家ノ子
姫島　求名　菱沼
前之内　北ノ幸谷
右村々
御役人中

一夜具五拾弐組
此割高百石ニ付四分弐厘

(5) 防捍係ニ付触書

道案内之名を廃し防捍と可相改、防はふせく捍はまもる、民之為ニ害を防れ捍りて安堵せしむる意なれは能々人撰是迄之風習金相除庶民安堵ニ至り候様可致、万事大小惣代ゟ指揮前条之趣意を堅く相守り土民之難渋ニ不相成　朝廷御仁恤之御趣意貫徹いたし候様有之度、若心得違之者有之自然権威を振ひ庶民之為ニ不被相成もの者早々撰ひ替可申事

一今般一際御一新之簾相立土民安堵不致候而者不相済儀ニ付、大小惣代名主共者猶更道案内之如き者ニ至迄聊ニ而茂不正之義有之候而者政体ニも抱り土民難渋ニも可相成儀ニ付、是迄之風習急度相改メ博弈等者勿論土民江金子強談等決而不可致候、道案内とも縦令土民之急難を取救ひ候とも夫者道案内之役目と申者ニ候間、聊之礼金たり共請申間鋪候、依而者是迄通之給金ニ而者生活も取続兼候半と存候間、房総之村役人共江穿鑿を遂土民之難渋不相成候而道案内共之生活相立悪党召捕方十分行届候而土民安堵いたし候様有之度候ニ付、高百石ニ付金弐分ツヽ之積り割掛候而其金子を以道案内共江与へ候ハヽ不正之金子不立取候而も旧来之風習不相止金作等いたし権威ケ間敷儀申掛土民難渋ニも相成候ハヽ急度糺明之上取締可申候、右高割金之儀ニ付聊ニ而も難渋之見込有之候ハヽ早々可申出事

辰十二月

追而大小惣代ニ而不都合之儀無之様取立致し割合之義者追而可申出事

辰十二月十八日

房総知県事

御役所

上総国山辺郡

大網村

大小惣代役人

東金町

大小惣代役人

片貝村

大小惣代役人

(6) 廻状

急廻状　　東金町

田間村始

以廻状得御意候、然者知県事様御役所当十六日宮谷村江御転陣ニ相成候趣被　仰出、尚先頃被　仰出候伍長什長組合之儀其外諸入用割合等品々御相談仕度儀御座候間、明廿日朝飯後早々名主弥左衛門方迄御参会可被成候、此段得御意度廻状不留置早々御順達留ゟ其節御返却可被成候、已上

辰十二月十九日　　東金町

明六ツ時出ス　　名主　弥左衛門

同　平左衛門

田間拾ヶ村

村々御役人中

尚々繁多之折柄故□掛り用弁可仕候間早々御出張可被成候、已上

(7) 触書

触　　太田備中守内

織本　兵八

桜井　孫六

津辺村先々　柴山村

田越村ゟ

此触書早々可相届候、以上

其村々今度御領分ニ相成候ニ付申談儀有之間、村役人一村壱人芝山村旅宿江可罷出候

一去ル戌ゟ去卯迄六ヶ年分免定并ニ皆済目録可差出候

一当辰納辻知県事ゟ御渡之仮免状可差出候

右之趣得其意村名下江名主印形致し早々順達留り村ゟ可相戻候、以上

太田備中守内

辰十二月廿四日　　桜井　孫六

織本　兵八

津辺、矢部、椎崎、木原、武勝、森、湯坂、姫島、求名、殿台、冨口、小泉、五木田、草深、松ヶ谷、井之内、本須賀留り

右村々名主中

(8) 廻状　　東金町

田間村始

尚々先日割合仕候高割金其村々御出金分延引之村方早々御差出し可

被下候、延日ニ相成候而者払方差支候ニ付呉々も御急キ御出金可被下候、以上

以廻状得御意候、然者　知県事様ゟ御廻達ニ付写しを以相廻し候間、則左ニ

先達而被　仰出通諸上納分総而金札ニ而時之相場を以可相納ニ付而者諸国見合わせ相場金百両ニ付札金百廿両を以当分上納御定ニ相成候事

辰十二月

右之通関八州御料村々者勿論私料村々ニ而も最寄知県事ゟ可被相触候也

会計官

右之通被仰出候ニ付可得其意もの也

房総知県事

役所印

辰十二月十四日

右之通ニ御座候間、御披見之上村名下江致請印刻付を以早々順達留りゟ御返却可被成候、以上

東金町

名主　平左衛門

同　弥左衛門

辰十二月廿五日

田間村拾郷村々

御役人中

(9)　廻状

通用銭之儀御廻達有之候処未タ不通用之趣ニ付村々役人共ゟ篤と申諭し御規則之通通用可致旨是又被　仰付候間東京府振合を以左之通

一青銭　廿四文

一文久銭　十六文

一鉄四ツ　四文

右之通無差支通用致し候様御取計ひ可被成候

一知県事様御休泊并ニ道案内休泊其外御用掛り入用当十月中割合致し候処、其後尚又同様之入用相嵩候ニ付五郷惣代中立合別帳之通割合致し候間、其御村々高当り之分来ル廿四日迄小組親村江御持参可被成候、年内余日も無之候間廿四日迄ニ無相違御持参可被下候、呉々も間違無之様御手配頼上候、已上

辰十二月

東金町

名主　平左衛門

同　弥左衛門

役人共

組合村々

御役人衆中

(10)-1　廻状

廻状　東金町

田間村始

其村々去辰畑方永納分未不納村々も有之以之外之事ニ付、来ル晦日限宮谷陣営江相納於等閑可為曲事条、此廻状刻付を以順達留り村ゟ可相返もの也

宮谷県

役所　印

巳正月六日

申上刻

土気町

大網村

極楽寺村
片貝村
東金町
右村々
役人中

(10)-2　廻状

以書状啓上仕候、然者此程当　御役所御荷物東京ゟ御引取ニ相成候処、野田村ゟ土気町迄之途中ニ而御刀壱腰御荷物之内より脱落見当り不申候間、其御組合村々之内ニ而取拾ひ候もの有之候ハヽ早々申出候様村々江御通達可被下候、猶最寄〳〵ニ而御心得拾候もの有之候ハヽ申出候様取計可被下候、已上

巳正月十六日　　大網村
年番　平兵衛

東金町
片貝村
御役人中様

以廻状得御意候、然者宮谷　知県事様ゟ御触達并大網村ゟ書状両通写相廻し候間、日附刻附致し早々順達留りゟ返却可被成候、以上

巳正月十七日　　東金町
午刻出ス　　名主　弥左衛門
同　平左衛門

田間、松、道、家、姫、求、菱、二、北
右村々
御役人中

(11)　触書　　(明治三年)正月

触　　芝山役所
木原村始

此壱封村継を以早々可相届候、以上

芝山村
中台村
山室村
中津田村
埴谷村
ゟ

其村々別紙之通書類不足之分取揃若本書無之分者村方下調帳又ハ写ヲ以なり共相揃急速差出可申候、村高相違有之村々者右割付又者水帳名寄帳或者先年公辺江書上候書物之控なり共村高聢と相分候書物持参可致候
一納辻調之儀ニ付相尋儀有之村々者村役人之内諸事差心得候者壱人罷出可申候
一此触書村順被継立可申候、留り村ゟ可相戻候、以上

正月廿八日　　芝山
役所

草深村
松ヶ谷村
小泉村
殿台村
木原村
五木田村

井ノ内村
本須賀村
森村
求名村
冨口村
右村々
名主中

（目録番号A32-24）

【史料19】廻状綴

(1) 廻状　東金町

田間村始北之幸谷留り

以廻状得御意候、然者当月七日其村々御集評之上台方村名主半右衛門殿相頼伺相立候一条同人儀十日出立長南宿江罷越候処、御役所御用繋ニ而暫休ニ相成りいつ申義ニも難相分り候間、空ク帰村仕候、尤御役所相立次第可罷出候得共其御村々ニ而も長南模様相分り候ハヽ為被御知相成り候様致し度、此段右半右衛門殿ゟ被申出得御意候、廻状早々御順達留りゟ御返却可被成候、以上

猶御用向無之村方も有之候得共村順ニ相認候間、乍御手数御継立可被成候、以上

辰九月十三日　東金町
名主　平左衛門

田間、松之郷、道庭、家之子、姫島、求名村
菱沼、前之内、二又、北之幸谷留り

右村々
御名主中

(2) 廻状

松尾県庁□　松ヶ谷村始
未ノ七月十六日申中刻出

藩ヲ廃シ県ヲ被置候事

辛未七月　太政官
松尾藩
知事　太田資美
免本官
辛未七月　太政官

今般藩ヲ廃シ県ヲ被置候ニ付テハ追テ御沙汰候迄大参事以下是迄通事務取扱可致事

辛未七月　太政官

右被　仰出候間可得其意者也

但シ刻附ヲ以順達候事

辛未七月十六日　松尾県庁内

申中刻出　松ヶ谷村始メ
椎崎村終り
右村々役人中

（目録番号A30-1）

【史料20】廻状留（竪冊）

何国何郡何村
何々神主
何之誰印
当辰何才
産子
何村

祭神　何々
神領　高何石
除地　何□目
但シ神領并ニ除地等
無之向無録と認候事
何国何郡何村
何国何之寺末
何宗
何之寺　印
寺領　高何石
除地　何石目
但シ寺領并除地等
無之向者無録と認候事

今度神職并寺院之面々別紙之通相認早々長南宿陣迄可差出候、且徳川家朱印并判物等有之向者是又急刻可差出候様其村組合村々役人ゟ通達可致もの也

辰十月　知県事
役所　印

上総国山辺郡
親村々
役人

会計官民政所ゟ御触書写

追而此触関内取締親村ニ而写取刻付を以早々相廻候、尤別紙請書相添留り村ゟ宿継を以　会計官民政所江可相返候、以上

当春以来関内之人民昏乱之ためニ及艱難深ク被為脳　辰襟御親臨之上普ク御安撫被遊度思召ニ而江戸表を東京と御唱替ニ相成り同所面江去ル十三日　御着輦被遊自今　皇居ニ被定東京城と奉称親ク御政務を被聞召候間、御趣意之程一統難有可相心得もの也

右之趣関東村々小前末々迄不洩様可触留事

辰十月廿四日
会計官
民政所
寄場
村々役人

一会計官民政所
一長南　御役所

右御触写相廻し候間小組合親村ゟ御達可被成、且神領寺領并除地有無組合村々之分取糺来月二日迄親郷ゟ名主平左衛門方迄御差出可被成候

御雛方御廻達之通り半紙竪帳ニ認メ御遣し相成り候様致し度、尤一紙ニ相成候間上紙無之候而も宜敷御座候

一知県事御附属　鹿子嶋菊治様并糺問局稲田様其外兵隊方御上下廿人程

一昨廿八日当町御止宿被遊候処村々境杭天朝之御支配所御建被置候杭疵付或者土をぬり有之候、右者其村名主之不行届と親村之越度と申もの二而村方ニ寄リ候而者竹矢来を廻し大切ニ致し、一体当辺之人気不宜王政　御一新之難在御趣意相弁江候様厚御利解御座候間、杭見苦敷

村方者早々仕直し可被成、尤立替ニも不及削替書直し向後心附可被成候、且廻状早々御順達村名下江印形被成留ゟ御返却可被成候、以上

辰十月廿日　　東金町

申下刻　　名主　平左衛門

台方村　山口村
福俵村　上谷村
菱沼村　田間村
右村々

御名主中

廻状　　菱沼村

家之子村始

以廻状得御意候、然者　御知県事御役所ゟ社寺石高其外御触書を以被仰渡候趣東金町大惣代より写を以被申越候ニ付、別紙之通り相廻し候間其御村方ニ而写取、仍而者取調明五ツ時迄拙村迄御届可被下候、此廻状早々順達留りゟ御返却可被下候、以上

十一月朔日　　菱沼村

年番　庄左衛門

家ノ子村
姫島村
求名村
右村々

名主中

（目録番号A32-16）

【史料21】太田備中守領分ニ付廻状

廻状　　房総県

役所

上総国武射郡森村

今般其村々太田備中守領分渡ニ相成候間得其意物成等都而同所江可相納め候、此廻状刻付を以早々順達留り村より可相返候也

宮谷県役所

巳二月四日

下総国武射郡（34）
森村始
百廿二ヶ村

以添書得御意候、然者　房総県　御役所ゟ別紙御廻状壱通被遊御渡拝見之上御順達仕候、猶墨附汚等一切無御座候、且飛脚賃銭之義壱両御立替申候、就而者壱ヶ村ゟ銭八拾七文ツヽ引去り順取御渡し可被下候、右申上候、以上

巳三月七日　　森村　役人

右村々

御名主中様

（目録番号R23）

【史料22】柴山藩職制ニ付覚

覚

位　　永々家老

柴山藩知事　布政局　須貝　三郎
大参事　会計局　甲賀　秀実

布政局　福島　倭一
議政所　国井　誠夫
権大参事　会計局　里見荘兵衛
布政局　浜野　広多
議長　青木　省三
公議人議政所　赤岸　兵蔵
会計局　青木源兵衛
軍務局　川副　勝記
御近侍御側　長塩祐左衛門
三浦彦左衛門
武光善太夫
番頭　古屋□左衛門
久松小弥多
郡奉行事郡令　山岸　左膳
山角　嘉膳
大目付役　二見五郎左衛門
島野　荘助
御勘定会計方　松山嘉左衛門
竹井　弥蔵
枚田　惣平
横田伝左衛門
道中掛道筋奉行　萩田喜左衛門
御代官　織本　兵八
今井　丈一
加藤儀左衛門
和田　嘉三
地方勘定人　袴田作右衛門
桜井　孫六
山田孫右衛門
検見出役　秋山　九郎
御蔵方　西川　堅二
山崎又左衛門
御勘定味噌役配事　土屋源惣左衛門
御城地普請方御掛り
御代官手代共旧来手代　堀内　逸平
書記筆生兼
聴訟方　伊藤　平吉
久野米左衛門
伊藤　金次
三浦弥五郎
牧野　権八
租税方　高林　堅助
三浦　武助
倉庫方　渡辺　堅助
酒井　吉郎
出役方　磯辺　健蔵
木野　岸二
本橋　鉄蔵

小沢　米八
書記筆生出役共　河合　鎌蔵
秋山　平衛

（目録番号G8・4）

【史料23】廻状留（横冊）

七月十日

以廻状申述候、然者只今芝山御役所ゟ左之通被　仰付候間御達申上候
一藩知事被蒙　仰候ニ付、傍示杭抜取村役人宅江差置候様申談置候処、
左之通認直し竪建置可申旨其村ゟ組合村々江通達可致者也

七月十日　芝山
郡政方　印

従是南東北西　太田備中守支配所
右者其村々江拙村ゟ御達し可申旨被　仰付候間、前段御承引被成候順
達留りゟ御返し可被下候、以上

津辺村
月番名主
道之助

津辺組村々
本須賀村留り
右村名主衆中

巳七月十五日写

触　柴山租税方

津辺村先々
津辺村
矢部村
椎崎村
木原村
武勝村
森　村
湯坂村
姫島村

八月七日

求名村
殿台村
富口村

同　八日

小泉村
五木田村
松谷村
井之内村
本須賀村

前々御年貢筋之儀当春中村々粗相尋候得共、猶又此度相尋候間、書面日
割之通朝五ツ時ゟ八ツ時迄之内柴山役所江可罷出候、勿論左之条々
一検地水帳類
一高反別帳類
一古割付類

一皆済目録類
一小物成類之訳柄
一延米口米俵入等之事
一米津出し之事
一寺社寄附米之事
一名主以下給米之事
一堰扶持之事
一荒地并溜池溝代其外永引地反別之事
右之条々相心得古書物類持参可罷出候、若当春相尋候節と勘違之儀申立候向有之候共不苦候間、正路ニ可申出候、右相心得此触書早々順達留り村より可相戻候、以上

柴山租税方　印

巳七月十二日

七月十四日

触　柴山郡政方
　津辺村先々
武蔵上総下総常陸上野下野
奥羽七州信濃越後
右者此度武州葛飾郡下今井村地内新川口諸物産積荷改メ番所御取建相成候ニ付而者、右国々ゟ江戸川通積荷川下ヲ致候ハヽ、同所ニおひて改請通船可致事
右之趣管轄中不洩様早々可被相触候也

巳六月

当今関八州陸羽之地ニ於て生糸蚕卵紙之類外国人江抜売致シ候者有之哉ニ相聞以之外事ニ候、自然右様不正之者有之ニおひて者急度御沙汰之次第茂候条厳重取締神奈川県ゟ役之致出張候筈ニ付此段相達候也

六月　民部官

諸官員其外諸家社寺之向共西京出立之節是迄同所駅逓司印鑑渡来候処、今般右駅逓司被廃候ニ付尓来於京都府印鑑相渡し候間、此旨相心得人馬継立無差支様支配下駅々江早々可触達候事

六月　民部官

右従　朝廷被　仰出候間村々得其意可申候、尤寺社方江茂申通村名下江名主印形いたし早々順達留り村ゟ可相戻候、以上

七月十四日　柴山郡政方

津辺村
矢部村
椎崎村
森　村
姫島村
求名村
殿台村
冨口村
小泉村
五木田村
松ヶ谷村

井之内村
本須賀村
右村々
名主中

五木田村
小泉村
冨口村
殿台村
求名村
姫島村
津部村
矢部村
森　村
椎崎村
右村々役人中

（目録番号A29-1-4）

【史料24】御用留

（竪冊・表紙）

明治四年
御　用　留
辛未三月日

徴兵規則
（略）
辛未正月　太政官

徴兵之儀前書之通被　仰出候ニ付、藩高ニ応し人撰之上可申付者勿論ニ候得共管内之者望之向も有之候ハヽ名前書江年齢相記し来月限可申出事
右之趣可得其意者也
辛未四月十三日
松尾藩庁
松ヶ谷村
井之内村
本須賀村

未四月十九日夜刻付
一御用状壱封　但三門村迄関内村ゟ継送申候
同四月十九日朝
一御用状弐通　但関内村中之村ゟ即刻関内村江継立申候
松尾藩庁
未四月十四日出
御用状　松谷村先々
先達而申談置候村々役人給米之儀組合村々之振照し合旁いまた村相談整兼候儀ニ有之候ハヽ急速談判為致候様可申談之処、此砌より追々最農之時節ニ相成候間、右を差置談合ニ者不及候間農隙見合五郷組合村々得とはなし合見込之趣年番村ゟ可伺出者也
辛未四月十四日　松尾藩庁

津辺村組村々
〆拾ヶ村松谷始
姫島村江継送り

一東京横浜其外江屠豚津出之儀ニ付先般七株之者申付、右株人之外津出シ不相成筈之処、株外之もの共津出し致し候趣相聞不都合之事ニ候、以来勝手ニ津出シいたし候者は拾五貫目ニ付金壱朱之口銭差出し可申候、津出シ之節者株人ゟ取立ニ廻村可致候間兼而為心得之申達置候也

辛未四月　　協救社
横芝中院

先般生豚売買之者共ゟ総大院規則を以税金取立候処、昨午年分未納之向茂有之候ニ付、右者兼而相達置候通早々差出し可申候、当未年分者追而相達候迄者税金差出しニ不及候間、其旨為心得相達候也

辛未四月十六日　　協救社
横芝中院

以廻章申達候、然者別紙弐冊差越候間得其意豚世話役見廻り役并ニ養豚致し居候向江為心得可相達候、早々順達留りゟ可相戻候也

未四月十九日　　協救社
横芝中院

殿台村　嶋村　津辺村　矢部村　姫島村
新田村　市場村　求名村　森村　椎崎村
右村々役人中

松尾藩庁

未四月廿日　　松谷村先々

油絞冥加上納之儀一般之御規則窺中ニ付去午年之儀者取立不申候処、年跨ニ茂相成未タ御下知茂無之候間、去午年之分者先ツ従前之振合ヲ以取立、尤菜種当時平均相場金壱両ニ付壱斗弐升七合八夕之割合を代永上納之積り候間、右稼人捻代之者引請当司江相納候様其管下稼人共江御申渡し有之度、此段及御廻達候也

未四月　　通商司
松尾藩
御中　他藩略ス

右之趣得其意稼人取調当月晦日限り可申出者也

辛未四月廿日　　松尾藩庁
松ヶ谷村先々
十三ヶ村
村々役人中

廻章　　本漸寺
幸田始　　役僧

乍恐以書附奉申上候

一今般祈祷并守護札致配札間敷旨請書可差上趣被　仰聞候ニ付、諸派共相達候得者宗法恒例之式左ニ奉申上候

一宗法祈祷之義ハ三宝諸天於宝前主君為恒愛快楽人病苦等之節応請身意泰然当病平愈之祈祷等者仏門之常規ニ御座候

一守護札之義ハ　皇国之厳禁邪宗改正ハ従来寺院之関係故　御国法犯も為無之毎家乾上邪宗防禦報国尽忠之基本ニ御座候、是宗祖日蓮為要法

妙蓮華経ヲ正面ニ顕現シ尺迦多宝ヲ始都而仏菩等令勧請者全帰教スル処之根本之本尊是仏前ニ安置シ仏経念誦信受唱題者為除病延寿也

右守本尊之上江寺号顕ハ正法之宗旨檀家之確明且猥ニ離檀改宗混乱無之様宗門之仕軌則従往古更仕来申候、右両条共御禁止之神仏混淆之義ニハ更ニ無之宗法執行ニ相違無御座候間此段趣意書ヲ以申上候、宜御聞置之程奉願上候、猶　御禁止之神勤等之祈祷者一切不仕候、若自今心得違之者於有之者厳相示シ可申候、以上

四月十三日

宮谷県

御役所

宮谷　本国寺

小西　正法寺

細草　遠霑寺

大沼田　妙経寺

以廻状得貴意候、然者去月廿二日従佐藤大属已来於僧侶祈祷并ニ守護札等致配札間敷旨寺ヨリ請書可差出候様被申聞候ニ付、諸派致相談別紙之通認一昨十三日差出候処昨十四日従武村殿従前之通相勤候而不苦趣被申聞候間御安心可被成、猶此上旦家江之教化専要ニ可致旨若輩僧侶御教示之程頼上候、已上

四月十五日出　　本国寺　印

本漸貴寺

右之趣去十五日至来候処外寺留居候ニ付今般守護札差控之急廻条と前後致候、此段別而相断申上候、尚為御得意之乍後曜御通達ニ及候、以上

未四月廿一日　　本漸寺

役僧

本光寺　善導寺　法蔵寺　円福寺　高福寺

長漸寺　本城寺　本妙寺　妙国寺

加点之上順達可被成候、留寺ゟ御戻し可被下候、以上

松尾藩庁　　松ヶ谷村先々役人中

辛未五月二日出ス

御仕置者有之節以後　御管内髪結共一統江職用申付呼出シ之儀者猿尾村喜三郎八田村之内生子宿繁蔵江申談候間同人ゟ通達次第差支江無之様可致、尤遠近ニ不拘順相立順番ニ当り候者江飛脚を以申遣し候ハヽ飛脚入用差出し職用者当人相働右飛脚ニ而申遣候而も刻限間ニ合申間敷見込之遠村者前書両人江兼而引請方相頼相当之賃銭相定置候共又者同職申合定式手近之者相頼一度之職用賃何程と定惣人数割を以出銭致し候共勝手次第、併不相当之儀相聞候得共取糺之上為引戻候間、心得違無之様職業之者江可申通者也

一家出致し前非後悔帰村相願候者親子兄弟者勿論懇篤ニ説諭致し可申、且不埒相働脱候者或者自他管轄ニおひて悪事致し被召捕御所置済引渡相成り候者共者別而之事当人改心之様子相見江候上者精々教諭差加江家業相励候様可致、如何様申聞候共不採用尚悪事ニ関係候欤又者遊惰ニ流レ候者ハ早速可申出、其筋ゟ茂厳敷申諭改心之場合ニ至り兼候ハヽ其節取計方茂可有之、様子ニ寄急度も可申付候条、其旨兼而心得可被在候、此義者前書之者ニ不限平日右様之輩在り之儀等閑置不実之取計相聞候ハヽ親族始村役人共之可及越度事

一前書之輩本郷ニ立帰候迄者村使ニ遣立一日壱人丈ケ之働ハ急度為致其

業ニ使随ひ相当之価差遣し候事ニ取極メ置、右酒代当人江者不渡村方ニ積置其者之心底見届ケ候上活計之道相立候節之一廉ニ相成候様可心掛事

右之趣可得其意者也

辛未五月　松尾藩庁

松ヶ谷村始
十三ヶ村
役人中

松尾藩庁

中野村
未五月十日出　役人中

松尾司計局

中野村
未五月十日　役人中

右廻状弐通五月十一日朝卯中刻請取早速関内村江順達仕候、以上

覚

一松尾藩庁
辛未五月十八日出
其村々牛馬并油絞人有無取調去四月限り可届同月中相達置候処、今ニ何等之儀も無之不申出等閑之事ニ候、調差支候間此触披見次第至急可相届者也

未五月十八日

松ヶ谷村始姫島村江
継立仕候

松尾藩庁　松ヶ谷村先々
役人中

辛未五月十八日未上刻出

今般下武射田村妙本寺江仮郷学校相開当十五日開黌致し度旨有志之者共依頼差許候事

今般左之両人江郷学校助教授申付候間随身勉励可致候

新堀村　林五左衛門
早船村仮郷学校出席

関内村　今関寿郎
下武射田村仮郷学校出席

右之趣可得其意者也

辛未五月　松尾藩庁
村々役人中

川々堤防修善入費国役金之儀、今般諸川治水検査懸出張一定之規則確定之筈ニ付追而課役法相立候迄先去午年分者去々巳年ニ照準シ草高百石ニ付金壱両弐分宛取立当未六月中ニ可相納委細之儀者土木司江打合可申事

辛未四月　民部省

右被　仰出候間当月中無遅延可相納者也

但刻付を以至急順達候事

辛未五月十八日申上刻出ス

松尾藩庁
松ヶ谷村先々

姫島村江順達仕候

松尾藩庁

松ヶ谷村先々

辛未五月廿五日　　村々役人中

村々庄屋役被　仰付候ニ付而者都而村用庄屋江引請候事と組頭什長之心得違有之向も相聞候、右者庄屋江諸事引請為取計候儀ニ者無之重立取締いたし組頭者庄屋之手助け相成候様何れも村治り者勿論瑣細之事たりとも為筋相成り候様取扱可致事と心得候様三役之者一同可申合者也

辛未五月廿五日　　松尾藩庁

松ヶ谷村始椎崎村留り

右村々役人中

松尾司計局

冨口村先々

七日八日半とり納

一米五拾六俵三斗六升五合

利米壱斗五升七合

右村々午御年貢米書面俵数来ル七日八日両日之内祝田御蔵ニおゐて請取候間、当日早朝ゟ出情俵数差出し村役人罷出可改請候也

追而今度之納ニ而皆納相成候納辻端米利米共一同差出し可相納候、尤雨天日送り可相心得候也

松尾司計局

未六月四日

冨田　冨田幸谷　矢部　椎崎

姫島　求名　津辺　冨口

右村々役人中

松尾御役所ゟ御触書

一戸籍之儀ニ付別紙之通被　仰出候ニ付而者追而調方可申談候得共可申候、尤都合ニ付一回寺院一同布告およひ候間得其意寺院村名下へ印形いたし刻付ヲ以順達留り村より可相戻者也

辛未六月九日未上刻発ス　　松尾藩庁

村々役人中

松尾藩庁

辛未六月廿日午中刻出　　田越村妙国寺先々

村方之者共神祭ニ相改度離旦之儀寺院江申込候ハヽ聞届可申処、彼是故障筋申立候向も有之哉ニ相聞候得共無謂差拒候義有之間敷候

一諸宗僧侶之儀ニ付昨午年被仰出茂有之候通り近世積徳持戒之念なく安逸を貪り僧侶ニ不似合所行も有之哉ニ相聞、僧風を乱シ御趣意ニ戻り如何之事ニ候、万一心得違有之ニおゐてハ取糺之上急度及沙汰ニ候条可得其意者也

松尾藩庁

辛未六月廿五日　　松ヶ谷村先々役人中

別紙之通寺院江相触置候間可得其意者也

辛未六月廿五日　　松尾藩庁　印

村方之者共神葬祭ニ相改メ度離旦之儀寺院江申込候ハヽ聞届可申之処、
彼是故障筋申立候向茂有之哉ニ相聞候得共無謂差拒之儀有之間敷候
一諸宗僧侶之儀ニ付昨午年被仰出茂有之候通り近世積徳持戒之念なく安
逸を貪り僧侶ニ不似合所行も有之哉ニ相聞、僧風を乱シ御趣意ニ戻り
如何之事ニ候、万一心得違有之ニおゐてハ取糺之上急度及沙汰ニ候条
可得其意者也可及沙汰事以廻状得御意候、陳者清酒濁酒醤油右三造之
義ニ付東京通商司　御役所ゟ松尾御役所江御沙汰之次第被為在候ニ付
御談申度御座候間、明後四日九ツ時迄ニ御村々三造人御一同庄屋兵左
衛門方迄御出会被下度願上候、尤三造人無之御村方者村名下江其段御
下ケ札いたし廻状早々順達留りゟ御返可被下候、以上

未七月二日出　　津辺村役人
矢部　椎崎　森　姫島　求名
右村々役人中

松尾藩庁

未七月三日未下刻出　　松ヶ谷村始り

太政官布告（棄児救育之儀）―略―
太政官布告（溺死人届出ニ付）―略―
太政官布告（売掛金訴訟ニ付）―略―
右之趣可得其意者也

辛未七月五日　　松尾藩庁
松ヶ谷村始
十三ヶ村

村々役人中

松ヶ谷村先々
役人中

松尾県庁

未七月十七日申上刻発ス

一棄児届　本須賀村
村割合
村役人給米割
一棄児届　小泉村
村役人給米割
一棄児届　殿台村
一棄児届　椎崎村
古器旧物
古書籍類
一村割合　松ヶ谷村
厄介召抱
一村割合　井之内村
一右同断　求名村
一右同断　姫島村
村役人給米割
右村々前書之廉々尓今届方不致等閑之事ニ候、此触披見次第至急届出可
申もの也

未七月十七日　　松尾県庁
申上刻出ス　　右村々
役人中

松尾県御役所ゟ
今般海内一般戸籍検査編製被　仰出候間、左之通区別相立戸長申付候、
右ニ関係候諸般之事ハ戸長ゟ申談候間、村々得其意一円社寺江茂申通刻
付を以順達可致もの也
未七月十八日未中刻出ス　松尾県庁
第十四区戸長　津辺村
菊池兵左衛門
但村数廿七ヶ村廻達　津辺村始

松尾県　松ヶ谷村先々
未七月廿五日
太政官布告(社寺領上地ニ付)　—略—
右被　仰出候間可得其意者也
辛未七月廿七日　松尾県庁
松ヶ谷村先々
右村役中

(目録番号R6)

【史料25】松尾県通達

(1)　太政官布告(神宮家禄ニ付)　-略-
右被仰出候間祭典料修復料社司家禄之分等御雛形ニ基明細取調来ル廿
日迄ニ可申出、至急之儀ニ付期限迄ニ不差出向ハ猶飛脚を以申遣候間
急度可被出候、尤一円社寺江茂可申通村々刻付を以順達可致もの也
辛未七月十三日　松尾藩庁

(2)　未中刻発
廃藩置県通知　明治四年七月
松尾県庁　松ヶ谷村先々
未七月十六日申中刻出ス
藩ヲ廃シ県ヲ被　置候事
辛未七月　太政官
松尾藩
知事　太田資美
免本官
辛未七月　太政官

(3)　今般藩ヲ廃シ県ヲ被　置候ニ付テハ追而御沙汰ニ候迄大参事以下
是迄之通事務取扱可致事
辛未七月
右被　仰出候間可得其意者也
辛未七月十六日　松尾県庁
申中刻出ス　松ヶ谷村先々
拾三ヶ村
村々役人中

(4)　姫島村御用先　牧野惣三
触
今般藩ヲ廃シ県ヲ被　置候間、　朝廷御沙汰ニ付高札并ニ傍示杭

藩名ヲ削リ県と認として出役候間、此触着次第高札傍示杭削置可申者也

未七月十七日

松尾県

使部　牧野惣三

求名村

嶋村

殿台村

上武射田村

堀之内村

中之村

三門村

追而三門村一泊之事

右村々役人中

(5)　松尾県通達　明治四年九月

廻状

戸長　津辺村　菊池兵左衛門

副長　姫島村　浦上甚五兵衛

以廻状得御意候、然者戸籍編製之儀過日中御村ゟ差出し候丈ケ御役所江奉差上御伺奉申上候処、夫々御加筆御下ケニ相成、且認メ振御口達之次第茂有之雛形相廻し候迄ニ而者却而御村々御手数相懸り候儀と存候間、明後廿五日乍御苦労庄屋衆中様兵左衛門方江御出会被成下候様仕度、委細雛形等入御覧ニ万々御談合仕候、且廻状早々御順達留り村ゟ其節御返し可被下候、以上

九月廿三日　矢部村先々

(6)　松尾司計局御役所　松谷村先々

一其村々巳御年貢米寒川曽我野納五厘外駄賃相渡し候間、来ル廿五日印形持参請取可罷出候也

九月廿三日出　司計局

先般御布告相成候当未八十八才以上之者并ニ戊辰年以来昨年十二月晦日迄棄児員数之儀平民外者兼而申出も有之候間不及申出候得共元穢多番非人之分者是迄不為申立候間、早々取調書付を以可申出、右年齢并ニ棄児養育等無之候ハヽ其段村名下江付紙いたし無遅滞順達、来ル廿七日迄ニ可相戻者也

辛未九月廿三日　松尾県庁

申ノ上刻出ス

(7)　松尾県庁　松谷村先々

九月廿七日未刻出ス

清濁酒醤油三造高免許鑑札相渡候間、来ル晦日新規願之者免許料并ニ新古ニ不拘免許税共持参村役人差添罷出可申候、村々刻付を以順達可致者也

但稼人印形持参之事

辛未九月廿七日　松尾県庁

申上刻出ス

松谷村先々

村々役人中

（目録番号 R44-3-1~7）

【史料26】御用留
（竪冊・表紙）

明治四年
御　用　留
未七月日　　求名村

松尾県庁　　松ヶ谷村先々
辛未七月廿八日未中刻発ス

今般戸籍編製ニ付被　仰出之趣先達而致布告候通管内士族卒平民之無差別男女奉公人兵借家其外寄留寄塾人弟子等管下ヨリ罷越居候者無遺漏厳重取調其外貫管轄庁江為申立鑑札取寄せ戸籍調書可差出事
　但道路懸隔り当人ゟ本貫庁之鑑札難乞受事故有者は其次第可申出事
一当管内戸籍之者従前届無之他管下江出稼致し居候者遺漏候時は自然無籍相成候条念入可申事
一旅籠屋及木賃宿渡世之者自今止宿之旅人所持之鑑札為差出鑑札面宿帳江写取七日目毎ニ其区之戸長之改メを可請、鑑札所持無之旅人者決而止宿為致申間敷候事
　但戸籍制之儀一般未タ不行届向茂可有之に付及沙汰ニ候迄者鑑札所持無之候共胡乱なる者ニも無之候ハヽ其村役所江申出可任差図ニ候事
一管内辺鄙之地方ニ而旅人行暮止宿乞候者有之節者村役所ニ而別而念入相糺鑑札相渡胡乱なる者ニ無之候ハヽ止宿為致候上其都度〳〵戸長江可相届候事
一旅籠屋ニ限らず捻而身寄之者泊り候ても逗留三日以上ハ其区之戸長江届ケ九十日以上者寄留とし本貫庁之鑑札を戸長へ差出寄留鑑札願出可申事
一寄留并ニ旅行共鑑札申卸之儀今般毎ニ区戸長被指置候ニ付而ハ自今戸長へ可申出事
　但公事訴訟等ニ而罷出候向者其節願済之上本文之通候事
一宿帳厳敷相改候ニ付而者旅籠屋渡世之者之外旅人者勿論商人たり共止宿為致候而者取調向ニ差障り候条向後不相成候、依之管内旅籠屋木賃宿とも名前書を以早々可申出候事
一普化宗者勿論瞽女座頭遊技浮職之者たりとも鑑札所持無之無証之者一切宿貸し申間敷事
　但社人出家等本文同断之事
一穢多非人之類平民と戸籍を同ふせさる者之如きは其人員及生死出入等其最寄戸長ニ而取調可相達、寄留旅行之規則等者平民之例ニ従ひ可申事
一生死縁組出入共其区之戸長へ急速ニ可申達候、若達し方時日及延引候事有之候而者遺漏之弊を生し候基ニ付麁略無之様可致候事
一前顕戸籍編制之儀輯納期限有之事故遅延等閑ニ而者不相済事ニ候、依而来ル八月晦日限り相整候様精々尽力可致旨戸長へ申談候、依而ハ各村役人共右之旨相弁へ一円行届候迄ハ万事戸長ニ打合せ前文期限を不失様其居村限下調いたし戸長へ差出可申候
右村々至急之事整ニ候条得其意刻付を以可致順達者也
　辛未七月廿八日未ノ中刻出ス　　松尾県庁
　　松ヶ谷村先々
　　村々役人中

松尾県庁　　松ヶ谷村先々

辛未八月八日発ス

太政官布告(新貨幣鋳造ニ付)　―略―

民部省布告(官林規則)　―略―

右之趣得其意一円社寺方江も可申通もの也

辛未八月八日　　松尾県庁

松ヶ谷村始

十六ヶ村先々

村役人中

松尾御役所御触　　松ヶ谷村先々

辛未八月十三日申上刻出ス

太政官布告(酒造其外取締并規則)　―略―

右之趣村々得其意刻付を以早々順達可致者也

辛未八月十二日　　松尾県庁

申上刻出ス　　松ヶ谷村先々

拾三ヶ村

村々役人中

松尾御役所　　松ヶ谷村先々

辛未八月廿五日出ス

戸籍編制被　仰出候ニ付而者彼所ゟ是所へ罷越し屋鋪所持安住いたし居未た送籍無之者其住所之籍ニ無之而者御趣意ニ悖り候間、自今其在留之地江入籍可致候、尤情故有之入籍難致者ハ其旨可申出候

右之趣可得其意者也

辛未八月廿五日　　松尾県庁

松ヶ谷村先々

松尾司計局　　津辺村先々

右村々已御年貢米之中登戸寒川両浦江津出納俵数并居村ゟ同浦迄之道法壱駄掛り銭取調雛型通り認来ル九月五日限可差出候也

未八月廿九日　　松尾司計局

右村役人

（目録番号R7）

【史料27】松尾藩庁役人寒中見舞ニ付覚

覚

未ノ十二月寒中御見舞控

御代官

西松尾　織本様

同御掛り　加藤様

同　和田様

五反田　今井様

田越　桜井様

庁掌方

六万部　中山様

水深　和田様

東松尾　吉田様

水深　三浦様
細野　若林様
倉庫方
水深　鳥井様
五反田　田村様
水深　中山様
五反田　木野様
八重田　神谷様
水深　小沢米八様
同　伊藤様
八重田　牧野様
同　三浦弥五郎様
社寺方
西松尾　柴田様
五反田　山田様

【史料28】御用留

（目録番号A34・7・4）

（竪冊・表紙）

明治四年
御　用　留
辛未十二月日

木更津県出張所
松尾庁　松ヶ谷先々
未十一月廿九日未上刻発ス
太政官布告(旧藩金穀調達ニ付)　―略―
右被　仰出候得其意旧藩江金穀調達之者取調之義者最前相達候日限無遅滞差出し可申候、此触以刻付順達可致者也
木更津県出張所
辛未十一月廿九日　松尾県
松ヶ谷村先々
村々役人中

元松尾県
司計局
一米百俵　求名村
其村当未御年貢米之内書面之俵数来ル八日ゟ十日迄之内八重田御蔵江差出可相納候也
辛未十二月五日　司計局
求名村
役人中

松尾県庁　田越村
未十二月五日出ス　妙国寺始
人生終始ヲ詳ニスルハ切要ノ事務云々之御布告ニ付埋葬取扱候儀可申出段当七月中相触候処、今に何等之儀も不申出如何之事ニ候、当七月ヨリ

十月迄取扱候分無洩記録シ、来ル十五日迄ニ有無トモ急度可申出者也

辛未十二月五日出ス　　松尾庁

田越村妙国寺始

五ヶ村寺院中

松尾庁　　殿台村先々

辛未十二月十日酉下刻出ス

松谷村　井之内村　本須賀村　殿台村　求名村

湯坂村　森村　武勝村　木原村　椎崎村

右村々当未御収納米永共今日迄皆済之筈ニ候処、何等之儀も不申出如何之事ニ候、仍而明後十二日無遅滞永納上納皆済届可致候、且先般相達置候諸学教授人并生徒人員相調一同可届出もの也

但社寺領上知有之時ニ者石代本文同様可相納もの也

辛未十二月十日酉下刻出ス　　松尾庁

右村々役人中

松尾庁　　松谷村先々

未十二月十一日

来ル申ノ八十八歳ニ相成候もの名前取調来ル廿日迄ニ可届出、右年齢無之村々者名下相断早々順達可致候、尤社寺方江茂可申通もの也

辛未十二月十一日

松尾庁　　松谷村先々

未十二月十二日申下刻出ス

儀倉米金之内下農之者共江当春耕夫食として貸渡候儀追々取立置候義者可有之候得共、未取立方不行届之向者来ル廿日迄ニ為詰戻可申候、日限後蔵詰見届之者差出し候間、其節米金共預り書付差出候、此触以刻付無遅滞順達可致もの也

辛未十二月十二日

申下刻出ス

廻章　　片貝村　鈴木十右衛門

中　村　戸田八十吉　　両人ゟ出

以章得貴意候、各々様益御機嫌克被成御勤務珍重之御儀ニ奉存候、此度御相談申上度義有之候間、来ル十八日晴雨ニ不抱印形御持参大堤松尾詰所江御出張被成下度奉待上候、此状早々御順達留り村ゟ御返却可被下候、以上

未十二月十一日申上刻出

触書

元松尾県司計局　　矢部村先々

此触書村々刻付ヲ以至急早々順達可致候、以上

辛未十二月十七日申下刻出ス

其村々当未ノ御年貢米之内河岸納俵数左之日割を以請取候間、差支無之様村役人罷出可改メ請者也、追而承知之村々名下江請印致し早々順達留りゟ可相戻候事

未十二月十七日

一廿三日、廿四日　　曽我浦改メ

一廿五日、廿六日　　寒川浦改メ
矢部、椎崎、森、求名、津辺、殿台、姫島
冨口、小泉、五木田、松谷、井之内、本須賀
右村々役人中

津辺村出御廻達
辛未十二月廿三日
以急状得貴意候、陳者当盆後防捍月給并ニ休泊賄之義別紙之通り割合ニ相成り、来ル廿五日六日両日之内司民局御役所江各々村ゟ上納可被成候、尤廿六日ニ而も休日無之ニ付是又御達シ可申段御沙汰ニ御座候、先者右両条共御達シ旁々得貴意候、且廻章刻付以順達廻尻ゟ御序ニ御返戻可被下候、以上
未十二月廿三日　　津辺村役人
森村湯坂村姫島村求名村
右村々役人中

右割合（略）

元松尾県　　松ヶ谷村先々
壬申正月二月未上刻出ス
太政官布告(新貨幣発行ニ付)　―略―
右被　仰出候間得其意社寺并ニ末々迄無洩申通至急刻付を以順達可致者也
壬申正月二日　　元松尾県
未上刻発ス　　村々役人中

元松尾県
壬申正月五日出ス　　松尾県
松ヶ谷村先々
新置県舎官員居宅并牢屋創立等ハ三分ノ一を官給シ自余ハ官轄ノ石高分課可致事
但県舎破損修復等者同断之事
右之通御布告相成候条各管下村々江無洩可被相達候也
辛未十二月十九日　　木更津県
右之通可得其意者也
壬申正月五日　　元松尾県

元松尾県　　松ヶ谷村先々
申正月十日出
酒醤油并儀倉金穀共明後十二日ゟ見分之役人差出し候間差支無之様改請可申、且義倉穀之儀者見分済之上尚又村預ケ申談候ニ付預り一札為差出候間、書面雛形之通認メ調印可致置者也
（雛形　略）
壬申正月十日出　　元松尾県
十三ケ村
右村々江

津辺村出
壬申正月十五日出ス
以廻章得貴意候、陳者戸籍調追々検査前立至り候間、区内寄留之もの召

仕ニ至迄一同出入左之通取調べ早々申出候様戸籍御役所より被仰付候間、
来ル十六日迄ニ各々村共御取調戸長之宅江御差出し被下度候、呉々も至
急之儀ニ付日限遅滞不相成様御取計可被下候、以上

（雛形略）

右部分御承知之上廻章早々御順達廻尾ゟ御返戻可被給候、已上

壬申正月十一日　　当区

副長　浦上甚五兵衛
戸長　菊池兵左衛門

矢部村　森村　椎崎村
姫島村　嶋村

右村々御役人衆中

元松尾県　　松ヶ谷村先々

壬申正月十二日出ス

当県官員并捕亡等之者管内巡廻之節休泊賄之儀者一飯壱米ニ相定メ候条、
休泊之村々ニ於テ壱汁壱菜総テ有合之品ヲ以取賄聊たり共馳走ケ間敷義
有之間敷旨元管下不洩様相達可被申候、此段相達候也

壬申正月　　木更津県

右被　仰出ニ候間得其意社寺方江も可申通候也

壬申正月十二日　　元松尾県

元松尾県御役所ゟ

記

其村々義倉金穀改メとして順村いたし候間、兼而相達置候趣承知可致候、
此触早々順達可相届者也

壬申正月廿日　　久野米衛

村々江

津辺村菊池兵左衛門殿
姫島村浦上甚五兵衛殿

壬申正月廿日申上刻出　　求名村始

以刻付廻章得貴意候、過刻者御入来御苦労千万ニ奉存候、陳者戸籍帳認
メ方之儀御談申上置候処、右帳面之義又々大至急ニ相成り清書者間ニ合
不申、依而者先般御渡し申置下書之内朱書并ニかけ紙ニ相成候廉々事実
御取糺し之上心得候御役人中之内御壱人最前之戸籍帳御持参乍御苦労明
日中兵左衛門宅江御入来被下度候、呉々も日延相成り候而者差支ニ付、
此段為念御願申上候、且廻状以刻付御順達廻尾ゟ其節御返戻可被給候、
以上

申正月廿日申上刻　　浦上甚五兵衛
菊池兵左衛門

元松尾県　　松ヶ谷村先々

申正月廿日申ノ下刻発ス

先刻相触候石米附帳取調入用ニ付、延享宝暦度前々割付皆済目録三四通
可差出候様相達候得共、右年限以来之分可差出、万一無之村方者可成丈
年古き分三四通至急可差出者也

但無民家村々者先刻相達候得共本文之通り相心得可申事

村々絵図面本県江引渡候様達有之候間色分ケいたし一村限り相認来ル晦

日限り可差出、且村役人給米先般申達候規則ニ基キ取立方渡方等明細取調同日迄ニ可差出候、此触刻付を以至急順達可有之者也

壬申正月廿日　　元松尾県

申下刻発ス　　松ヶ谷村先々

右村々役人中

元松尾県　　松ヶ谷村先々

壬申正月廿三日出ス

（氏子取調雛形　略）

右雛形之通氏子取調来ル廿七日迄ニ差出し可申候、至急之儀ニ付刻付を以順達可有之者也

申正月廿三日出　　元松尾県

十三ヶ村

役人中

廻章　　津辺村

壬申正月廿七日出森村始

以廻状得貴意候、陳者旧地頭先納金御下ケ願ニ付過日中七組惣代ヲ以松尾御役所江奉願上候処、先般歎願等も有之候ニ付木更津県江御達シニ相成候次第も有之今一応本県江御達シ被下候旨右惣代之者共江被仰付候ニ付難有一同帰村いたし候得共、右御沙汰御伺として来ル七日猿尾村郷宿銀右衛門宅ニ而先納差出し候もの一同集会之筈ニ付、組々触元ゟ各々村江其段沙汰可及旨惣代之ものゟ被申聞候間、前条得貴意候、同日無遅滞御出会御座候様いたし度候、且廻章早々御順達可被給候、以上

壬申正月十七日　　津辺村役人

森村　姫島　求名村　冨口村　小泉村

五木田村　松谷村　本須賀村

右村々御役人中

尚々御集会之節印形御持参可被下候、以上

元松尾県　　松ヶ谷村　姫島村

一清酒造濁酒造　姫島村

一濁酒造　求名村

一醤油造　津辺村

一清酒造濁酒造　冨口村

一右同断　五木田村

一濁酒造醤油造　本須賀村

一濁酒造　井之内村

一醤油造　松ヶ谷村

右村々三造鑑札相渡候間、此配紙拝見次第稼人共印形持参即刻可罷出者也

但刻付順次之事

申二月未上刻　　元松尾県庁御印

右村々役人中

此分申ノ正月廿三日出

来ル廿七日廿八日両日之内去未御年貢免定相渡候間可罷出候

一御引渡シニ付村役人并社寺印鑑入用ニ付、什長以上何拾人有之候共不

残取揃社寺之分者銘々持参右前日之内可罷出、尤印鑑引送り之儀ニ付代印者不相成候間、其旨相心得刻付を以順達可致者也

壬申正月廿三日　　元松尾県庁

申中刻出　　村々役人

元松尾県　　松谷村先々

申二月五日出

一当正月分ゟ元管内士族卒平民ニ至ル迄戸長副長給として壱戸銭百文ツヽ月ニ差出シ可申候

但士族卒割渡之地所江住居罷在候面々者伍長ニ而取立触頭取纏士着之向并平民者村役人ニ而取纏戸長江月々差出可申候

一家内人数増減改名転宅寄留送籍

但右之廉々有之節者長副之内江必相届ケ、其節為筆墨料銭五拾文ツヽ差出シ可申候

右之趣可得其意者也　　元松尾県

壬申二月五日出

元松尾県　　松ヶ谷村先々

壬申二月八日出

去月廿四日御布告ニ相成り候牛馬渡世之者冥加金上納之儀自今壱ヶ月金壱両ト認メ有之候処、右者金壱ヶ年金壱円之書誤ニ候条其旨無洩可申通者也

壬申二月八日　　元松尾県

拾三ヶ村　　村々役人中

元松尾県　　松ヶ谷村先々

申二月十日出

一武器得物ヲ携へ候盗賊押込ニ遇フ戸数

一ツケ火ニテ焼レシ戸数

一追剥追落ニ遇候人数

一疵ヲ受又者殺サレシ人数

一押込ニテ盗マレシ金銭穀物衣類雑物之員数

一武器得物ヲ不携又者何者共不知盗難過候戸数

一同被盗候金銭衣類穀物雑物之員数

一右盗マレシ金銭衣類穀物雑物之員数

右之通詳細取調平常盗難届之外村々一区限り取纏毎月之分其翌月十日迄ニ有無共無相違当県江可被差出もの也

壬申二月　　木更津県

聴訟課

追而本文届之外盗難ニ遇ヒ或者取落シ物拾ひ取候物有之共時々早急可訴出者勿論之事ニ候得共、尚此上心得違無之様小前末々迄不洩様可相達、此廻状刻付ヲ以至急廻達周尾ゟ可相返者也

是迄壱会講或者何会講と相唱へ其他冨鬮ニ紛敷義企候者有之哉之趣相聞以之外之事ニ候、自今右様之義堅停止候条、若相背候者有之ニおゐて者発起人者勿論其列ニ加り候者無用捨差押夫々咎メ可申付候条、此上心得違無之様小前末々迄不洩様可相達者也

壬申二月　　木更津県
聴訟課

右之通其旧県ニおゐて旧管内村々無洩布達可致事

壬申二月三日　　木更津県

右御達有之候条得其意盗難届之義者戸長ニおゐて毎月取調ニ付向後庁并戸長江都度々々可相届者也

壬申二月十日　　元松尾県
申上刻出　　村々役人中

廻章　　第拾四区
辛未十一月廿日矢部村始　　戸長副長

以廻章得貴意候、陳者戸籍編製ニ付番号之出入有之順序相くるひ候間、別帳之番号ニ各村共御引直し可被下候、番号札追而御廻し可申上候得共、先仮ニ右順ヲ乍御手数戸毎ニ御張出し可被下候、外ニ送籍雛形帳御廻し申上候、其中ニ有之候寄留届之儀者追々御規則之可被仰出候得共、先当分者右等之振合ニ而御取計可被下候、先者右得貴意度廻状早々順達廻尾ゟ早々御返却可被下候、以上

辛未十一月廿日　　第十四区
戸長副長 印

矢部村　椎崎村　森村　姫島村　求名村　島村　殿台村
冨口村　小泉村　新泉村　真行寺村　島戸野堀村　川崎村
親田村　市場村
右村々御役人中

元松尾県　　松ヶ谷村先々

壬申二月十五日出

去未年分皆済目録相渡シ候間小手形并印形持参来ル廿日請取可罷出、尤刻付を以至急順達可致候、已上

壬申二月十五日　　十六ヶ村
申上刻出　　村々役人

元松尾県　　松ヶ谷村始

壬申二月十七日出申上刻

去十二月土地人民木更津県江引渡相成候、就而者士民之諸願伺訴訟等都而追而達有之候迄者木更津本庁江可申出旨達有之候間為心得相達候

右之趣得其意社寺方江茂無漏可申通候、村々刻付を以至急順達可致者也

壬申二月十七日申上刻出ス　　松ヶ谷村始
十四ヶ村
村々役人中

元松尾県　　井之内村先々

来ル廿七日廿八日両日之内未ノ御年貢皆済目録相渡候間小手形并ニ印形持参可罷出候、尤村々刻付を以至急順達可致者也

壬申二月廿三日未ノ上刻出ス　　元松尾県
姫島村江順達仕候

廻達
木更津県
聴訟課

武射郡蓮沼村始村々

以急状申達候、当正月中盗難有無届可差出段過日相達置候処、今以不差出村々者早々取調来ル廿六日迄ニ無遅滞可差出、右日限迄ニ不差出村々者役人厳重所置可申付者也

壬申二月廿日　　木更津県

聴訟課

上総国武射郡

蓮沼村始

村々江

廻状刻付を以廻達廻シ候村々者村名相記請印可致者也

大急　　十四区

廻章　　菊地兵左衛門出

壬申三月五日　　矢部村始メ

以廻章得貴意候、しかれは過日盗難御届として富口村庄屋高橋嘉右衛門殿木更津表江出張無滞御用済帰村ニ相成り、其後引続き片貝埴谷両村役人罷出候処武射山辺両郡村々氏子人員至急取調当十日迄ニ差出し候様被仰付、且盗難届之義も有無月々御届ケ可申出旨被　仰付、右両村ゟ通達有之候間明後七日当区参会相催候、乍御苦労御印形御持参拙宅迄御集会可被下候

一氏子人員　但シ当正月中旧松尾県江差出し候振合ニ而神主名前迄一同御取調御持参可被下候

一二月中之盗難御取調御持参可被下候

右両条とも御取調出席可被下候、委細ハ其節可申述候、廻章速々御順達留り御村ゟ御返戻可被下候、以上

申三月五日　　第十四区　菊地兵左衛門

浦上甚五兵衛殿御出席可被下候

矢部村　姫島村

椎崎村　求名村

森村　嶋村

右村々役人中

廻状　木更津県

大網出張庁　武射郡森村始

大蔵省布告(清濁酒醤油造冥加ニ付)　―略―

右清濁酒醤油造冥加其外納方之儀者度々相触達候処、今以等閑ニ打過候もの有之ニ付、尚又今般右之通厳重御達相成り候条至急稼人共江相達、右日限以前無相違大蔵省江貢納取計其段可届出候、此廻状至急刻付を以順達廻尾ゟ可相返もの也

壬申三月十二日

木更津県大網出張庁印

武射郡　森村始　湯坂　姫島　求名　殿台

冨口　小泉　五木田　松ヶ谷　井之内

本須賀　野中　新井堀　尾形　成東上町

成東下町　板附　谷部　椎崎　木原　白枡

沖渡　横田　実門

右村々

役人中

追而此廻状順能廻達可致者也
別紙之通御達相成候ニ付其御村々相印シ村名下江刻付印形イタシ順能御廻達可被成候、以上
明治五壬申
三月十三日　成東邨
申下刻出ス　両村

（目録番号R8）

【史料29】木更津県布達（竪冊）
（朱書）元松尾県御触
上総国元各県管轄地郷村受取候上者当分之内宮谷大多喜両旧県庁ヲ以更ニ出張所と定メ別冊村名之通於各所事務為取扱候ニ付、此段為心得相達候条、各管下村々江茂無洩可被相達候也
辛未十二月　木更津県
宮谷県出張所受持
武射郡
山辺郡
右二国一円
長柄郡之内　一ツ松之内
浜宿村　原　村
牛込村　入山須村
剃金村　北四ヶ村之内
五井村　驚北野村
古所村　一ツ松之内
八斗村　蟹道村
小八斗村新田　北四箇村之内
中里村　新屋敷村
驚　村　北四ヶ村
小泉村　同
幸知村　城ノ内村
一ツ松惣郷村　一ツ松村
一松村之内　宮原村
兵庫内村　金田村
溝代村　信友村
北四ヶ村之内　岩沼村
驚大村　七井戸村
一ツ松之内　藪塚村
大坪村　水口村
南九ヶ村之内　宮成村
畑中村　高根本郷村
江尻村　天子丸村
新笈村　北高根村
久手村　関　村
中島村　観音堂村
一ツ松村之内　南清水村
前里村　御蔵芝村
南九ヶ村之内　北日当村
貝塚村　南日当村

高塚村
一ツ松之内
初崎村
南九ヶ村之内
新池村
船頭給村
南九ヶ村
曽根新田
田永新田
上福新田
新久新田
国昌新田
総寿新田
木崎新田
大芝村
永吉新田
早野新田
木崎村
千町野新田之内
町保新田
谷本村
小轡新田
小轡村
本小轡村

南北日当村之内
日当村新田
同　上地
千町村
千町野新田
千町野新田之内
千盛新田
柴名村
上吉井村
下大田村
上大田村
桂　村
神房村
高田村
法目村
小萱場村
萱場村
南吉田村
南吉田村之内
南吉田村新田
尺渡村
粟生野村
千沢村

以上

本庁

新小轡村
七渡村
北塚村新田
腰当村
渋谷村
本納村
下吉井村
猿袋村
北山田寺崎新田
上市場村
北山田村
大谷木村
上ノ郷村
下ノ郷村
岩井村
小瀧村
阿須ヶ谷村
東浪見村
総田村
椎木村
中原村
和泉村

大多喜出張所受持
夷隅郡一圓
長柄郡之内
新笈村
本郷村
河島村
寺崎村
茂原村
高師村
小林村
長尾村
押日村
大登村
黒戸村
国府関村
真名村
味庄村
舟木村
中野台村
上野村
山ノ郷村
六地蔵村
皿木村
長柄村

市原郡　刑部村
望陀郡　田代村
天羽郡　大庭村
周淮郡　笠森村
埴生郡　深澤村
右五郡一円　鴇谷村
長柄郡之内　初山村
高山村　小江本村
大津蔵村　江本村
金水村　芦綱村
針ヶ水村　箕輪村
立鳥村　内長水村
永富村　山崎村
徳増村　長谷村
桜谷村　鷲巣村
千代丸村　茂原村之内
山根村　上茂原村
国府里村　千町新田之内
力丸村　小林川代新田
以上

右御達之趣村々得其意社寺方江茂義無洩可申通者也　松尾県
壬申二月二日発ス

松ヶ谷　井ノ内　本須賀　五木田　小泉
冨口　殿台　求名　姫島　津辺
矢部　湯坂　森　木原　武勝
椎崎
右村々
役人中

（目録番号T4-2）

【史料30】木更津県布達（竪冊）

十月廿五日　本県ゟ至来拝見草深村江継立申候元朱印寺社領并除地朱印外社寺領除地之儀旧県々ゟ調書引送り相成候処不都合之廉も有之候ニ付、尚又巨細取調書差出地所并立木ノ御払下ケ可相願旨兼而相達置候処、上地田畑貢租并去ル子ゟ巳迄六ヶ年平均物成立木代金積等別紙雛形之振合ヲ以詳細取調、来ル十一月七日ゟ十日迄ニ無遅々可差出候、廻状刻付ヲ以至急順達周尾ゟ可返者也

壬申十月廿三日　木更津県

巳半刻出　租税課印

武射郡
求名村　始
草深村
五木田村
井之内村

雛形（略）

（目録番号R44-4）

【史料31】地租改正ニ付建白

地租改正之儀ハ人民ノ幸不幸ニ大関スル事業ニ付暫クモ軽忽ニ致シ調査迂延仕儀ハ無之候ヘモ先般地券ノ令ヲ発シ県官派出厳ニ督責在ラセラレ之カ為調費巨多ナル所今亦地租改正ノ際ニ至リ整理ノ上ハ御施行之アル筈ニ候ヘトモ前令ニ相反シ更ニ督促モ之ナク等閑ニ差置候ニ付、人民陰ニ岐路ノ迷ヒヲ生シ各自疑猜スルコト浅々ナラス、且ハ是迄石盛ノ昂位地所ノ転変ニ因リ其貢納一ナラス其他売買上ノ甚シキニ至リテハ目下金ニ為サンコトニ迷ヒ高反別等引残シ地所ハ僅カノ貢納ヲ割付シ売渡候ニ付、先般取調候一筆限リ券証面ト持地トヲ比較スレハ齟齬ノ者半ニ過ク、然リト雖モ貢租民費ノ儀ハ今以テ旧高ニ賦課シ候ニ付残高所持ノ貧民ハ益貧ニ困ミ之カ為ニ各不体裁ヲ懐キ貢租民費等凝滞延期ニ及ヒ甚シキハ身代限リ逃亡等ニ至ルニ付、区戸長説諭ヲ加フト雖モ窮スレハ罪ヲ怕レス現ニ県官及区吏ノ手数モ莫大ナリ、惟フニ方今御政體民費ノ多端ナルコト必セリ、如何ニトナルニ公布ノ紙代警保費徒場牢獄費県庁営繕費并ニ大小区費ニ至ル迄民費ニ課セサルハナシ、推考スルニ人民ヲ保護スル大義ハ政府ノ要務ニシテ人民之ニ報スルニ租税ヲ以ス、然レハ則チ保護ノ費ヲ民費ニ課スルノ理無之哉ニ存候、実ニ地租改正ノ儀モ有名無実ナルカ如ク、故ニ命令下ニ貫徹セス百事盻眙スルニ付動モスレハ御趣意ニ悖戻ス、各自由ノ権ヲ専ニシ交モ利ヲ征テ自己ノ職業ヲ倦怠シ過分ノ負債ヲ醸シ行ク裁判上ニ至リテハ身代限リニ至ル、是等ヲ真ノ開化人抔ト唱ヘ候ハ文教ノ今日実ニ歎スヘキノ至リナラス、因テ方今形勢ヲ熟視スルニ政府ハ漸々隆盛ノ勢ヒアリ下ハ追次疲労ノ弊アリテ流殍スルノトキ近キニアリ、之ニ由テ之ヲ観レハ全国ノ形勢殆ント頭肥尾瘠ノ如シ因テ仰キ望ム、宜シク全国冗費ヲ省キ富国ノ策ヲ専ニシ尚一般令ヲ下シ地租改正行届租ニ寛苛無ヲシメ人民堵ヲ安スルトキハ学校育士ノ法方モ盛大ニ行レ漸々開化進歩センコト爾リ、然リト雖モ実際ニ於テ地租改正法方未タ行レ難キカ、調費ノ巨多タルヲ厭コト故カ、将又此他ニ出ルモノカ更ニ其趣ヲ一般ニ布達シ人民疑猜ノ惑ヒニ至ラサランコトヲ希望ス、誠志誠惶謹言

第九大区二小区
上総国武左郡下之郷邨
名主代　渡辺三郎右衛門長男
渡辺伊十郎

千葉県令　柴原和殿

（目録番号R36）

【史料32】大区会議ニ付意見

第一号

本日議事開会ノ儀各区長ト商議シ凡区内中央大堤村ニオキテ仮ニ議会所ヲ開クト雖モ各村ニ至リ弁不弁□ハカルヘカラズ、因テ将来何レノ地ニ於テ会議スヘキ乎

附リ会議ノ節椅子テイツルナクニテハ席上雑沓シテ議事ノ体裁ヲ失シ之ヲ用ニセバ又費用ヲ憚ル、如何シテ可ナランヤ、因テ衆議ニ附ス

明治七年一月五日

第二号

夫レ御布令ノ尽ク能下民ニ貫徹セザルハ村長其責ヲ免カルベカラス、然レバ馬耳ノ東風ニ同シキ趣是甚愚ル所ナリ、今ヨリ各村正副戸長ノ内布令掛ヲ担任セシメ毎月両三回用暇ノ日ヲ以村役人ヲ集会シ懇切説話難有趣旨ノ有ルコトヲ知ラシメバ如何

明治七年第四月五日　　代議人　菊池武敬

第三号

今ヤ小学校ノ挙アリ、此レ人民ノ洪福言ヲ得サルナリ、是頃学区中就学不就学ノ者調査有リ、然ルニ不就学ノ者十ニシテ四五有リト聞ク、思ニ夫ノ不就学ニ二様有ヘシ、其一ハ貧民ニシテ学校需要ノ書冊紙筆等ノ費用足ラス本意ニアラスシテ其子弟ヲシテ学ニ就カシメサル者有ラン、此レ憫然ト謂ヘシ、其二ツニハ今日ノ活計足ル者ニシテ只目下聊カノ費用ヲ忌ミ或ハ少ク我意ニ協ハサル事アリテ難有御趣旨ニ忤ヒ其子弟ヲ就学ニ就シメサル者アラン、其レ之レヲ何トカ謂ハン実ニ歎ズベク憂フベキノ一大事ナラスヤ、今此二ツノ者ヲシテ速ニ学ニ就カシメント欲ス、乞フ各為メニ其方法ヲ陳述センコトヲ

明治七年四月五日　　代議人　菊池武敬

（目録番号R44-3）

【史料33】育児募金ニ付達

達

先般育児募金上納方相達置候得共未タ何等之沙汰も無之上納筋御むり如何敷義申居閑等致し候得者至急性名取調差出し候様被成度候也

八年一月廿日　　頭取　大高保蔵　印

副取締　斎藤逸三郎殿

右之通被為達候ニ付御達申候間、御出金之者共御談示上納相成候様被成度者也

一月廿一日　　二小区育児副取締　斎藤逸三郎代　長谷河重郎兵衛　印

松ヶ谷村　草深村
下横地村　五木田村
上横地村　求名村
冨口村　本須賀村
小泉村

右村々
用掛御中

此状披見次第村名下江令受印至急御順達可被成候也

以回章得御意候、弥厳寒之砌り各邨皆々様御揃益々被遊御勤役大慶不斜至極ニ奉存候、陳者昨七年一月ゟ八月下旬迄育児取締方ニ付諸入費相掛り、依而者二小区内蓮沼村取締両人ニ而お訳致し候ニ付、拙持場十一ヶ村ニ割合仕就而者先般ゟ之御布告ニ者窮民明細帳ニ書上ケ候者ニ者入費等割合不相成様之御達ニ付、左ニ戸数割仕候間乍御面倒様御取纏メ被成下度願上候也

記

一金拾壱円七拾壱銭五厘　　七年一月ゟ八年下旬迄之諸入費〆高

十一ヶ村
合戸数千五百四拾五戸
内貧民戸数百六拾戸　除キ
差引
戸数千三百八拾五戸
但シ壱戸ニ付
金八厘四毛五八四宛
此村訳左ニ
村訳（略）
〆
右之通ニ御座候間宜敷頼上候也
第八年一月廿一日　井之内村
育児副取締　斎藤逸三郎代
長谷河重郎兵衛　印
右村々
用掛中
此御披見之上村名下江令受印至急御順達周尾御村方ゟ拙方江御返却
願入候也

（目録番号R44-11）

【史料34】回達留
（朱書）明治七年十月四日二小区副戸長之者控

回達　第九大区二小区　扱所
柴原村始
蓮沼村　川島十右衛門　新堀村　北田権三郎
上横地村　石渡六左衛門　富口村　高橋嘉右衛門
井之内村　斎藤　逸作　小泉村　川島四郎兵衛
松ヶ谷村　若林伊兵衛　野中村　佐瀬源三郎
同　梶屋貞一郎　本須賀村　海保善右衛門
同　小倉真次郎　下ノ郷村　渡辺　惣蔵
〆拾弐名
右之者今般第九大区二小区副戸長被命候間得其意小前末々迄無漏
通可被致者也
第十月二日　二小区
戸長　安藤　正之
柴原村小泉村富口村求名村
右村々旧正副戸長中

回達　二小区扱所
柴原村始
今般各村用掛選挙之義大区扱所ヨリ至急被相達候ニ付而者第三百
七号御規則之通五拾戸ニ壱人之振合を以村内一同選挙投票取纏来
ル十日迄に無遅滞扱所へ可差出候也
明治七年十月八日　二小区扱所

柴原村小泉村冨口村求名村
右村々旧正副戸長中

回達　二小区扱所
柴原村始　冨口村　高橋嘉右衛門
水深村　古谷喜右衛門

右者本月（年）六月中布達致し置候質渡世話高点ニ由テ前書名前之もの頭取役ニ相定候、得其意名前下江請印周尾ゟ可被相返候也

明治七年十月卅日　二小区扱所

質屋稼人

松ヶ谷村　〆拾三人　水深村　古谷喜右衛門
広根村新田　北田源左衛門　折戸村　弐人
蓮沼村　四拾七人　下ノ郷村　三人
野中村　佐瀬源三郎　柴原村　平沢市左衛門
木戸村　五人　求名村　戸田二左衛門
井ノ内村　九人　伊藤伝兵衛
草深村　四人　五木田村　四人
平野新田　鵜沢又右衛門　冨口村　三人
下横地村　伊藤六右衛門　小泉村　弐人
借毛本郷村　七人　本須賀村　拾人
上横地村　七人　小松村　三人
右稼人中

其大区各小区村々当七年租税石代金納願之義取纏メ別冊之通差出し候処、右者其筋ゟ御達之御趣意も有之且貫属家禄正米渡し二付而者貫属居住地最寄者米納申付候儀も可有之段兼而相達候義ニ有之水損於其他事実米怡不宜分者格別其余可成丈ヶ正納之儀可為説諭候、仍而差出し候願書差戻候間夫々申聞候上否至急可申出候、此段相達候事

明治七年十月十九日　千葉県租税課
第九大区二小区

右之通被相達候条御趣意　奉戴シ可成丈ヶ正納相成候様懇篤決議之上来ル七日午前十時限リ願書可差出此段相達候間、村名下江刻付令請印至急順達周尾ヨリ可相返者也

明治七年十一月四日　二小区扱所

追而過日申達候興津宿助郷一件惣代入費尓今差出し不申甚不都合之至リニ候条、明五日出頭持参可被致者也

冨口村求名村小泉五木田草深
右村々旧副戸長中

（目録番号T1・1）

【史料35】教導職説教巡廻ニ付達

記

第八月六日　折戸村　大宮神社拝殿ニテ
同　十一日　蓮沼村　五所神社拝殿ニテ
同　十五日　成東町　八幡神社ニテ
同　廿八日　中村　粟生巣社ニテ

同　廿日　加茂村　青日神社ニテ
同　七日　松ノ郷村　日吉神社ニテ
同　廿一日　小池村　面足神社ニテ
今般拙者等教導職ニ被　仰付毎月依之各村神社拝殿ニおゐて毎月日限左之通本日午後一時ゟ始メ説教致し候間区内各村毎ニ老若男女を不論当日拝聴可被成候様御通達候也

第七月廿九日　教導職
社信政　印
朝日吉熙
佐伯真枚

右之通区長江頼ニ付得其意候間無洩伝達可致事

第九大区二小区
区長調所
小泉村
富口村
本須賀村
求名村
井之内村
右村々
正副戸長中

（目録番号R37）

【史料36】御用記（抄）
（竪冊・表紙）

明治七年
（朱書）第壱番
○御用記
第十二月一日

廻達　第九大区扱所
水深先々選挙人中

其区内副戸長壱名撰挙致し投票可仕差出候、書式日限等ハ兼テ御達有之候例規之通可被心得候事

明治七年十一月廿日　第九大区扱所
二小区撰挙人中
水深村芝原上横地小松下横地草深
五木田小泉富口求名

其区内村々学事之義ニ付申談之義有之候間明七日午前第十時出会候様御達シニ付直と御直シニ付、尤当日休暇日ニ者候得共至急之義ニ付出頭有之度此段及御達候也

明治七年十二月六日　塚本正典
安藤正之殿

右之通被相達候ニ付村々得其意刻限無遅滞壱名ツヽ印形御持参可罷出者也

二小区扱所印
柴原村小松村草深村小泉村求名村
上横地村下横地五木田富口村
右村々
用掛中

（朱書）十二月十日来リ
県庁第四百七拾八号ヲ以御布達相成居候当七年貢納金之儀県庁納日限十六日之御達相成候ニ就而者来ル十二日より取立として区吏致廻在候ニ付銘村小前末々迄其段相心得日限無遅滞上納相成候様御触達有之度此亦相達候也

明治七年十二月九日　二小区扱所
下横地草深小泉五木田冨口求名
右村々用掛御中

小区取締所配設ノ位置ヲ仮定スルコト左ノ如シ

第九大区
一小区　大区取締所
二小区　連合　松尾
三小区　柴山村

右之通り御達ニ付及達候也

明治七年十二月十八日　大区扱所
二小区扱所
御中

（朱書）一月二日来り
大至急　井之内村出
回章
育児御用　松ケ谷村始メ

育児募金上納之義者兼期限も有之年々十一月中ニ者皆納可致筈之処其大区中之義者尓今上納方不申出不都合ニ候条、急速各小区正副取締江致通達悉皆取締本年中皆納可取計此段相達候也

第十二月廿八日　千葉県令柴原和代理
千葉権参事岩佐為春印
大区
育児頭取

前書之通岩佐君ゟ御達ニ付早々御取計上納方ニ相成候様御手配可被成候也

同頭取　大高保蔵印
育児副取締
斎藤逸三郎殿

前条御達ニ付至急御取纏メ上納相成候様御取計被成度候也

第十二月廿九日　二小区副取締
斎藤逸三郎印
松ケ谷小松下横地上横地草深
小泉冨口五木田求名本須賀
右邨々
用掛御中

別紙御披見次第村名下江令請印至急御順達可被成候也

回状　借毛本郷邨
川島次郎左衛門
水深村始メ

右邨皆々様御清栄ニ被遊御勤役奉賀上候、然者興津助郷之儀ニハ御相談仕度候間、明後六日午前第十時揃ニて村々用掛之内御壱名御印形御持参水深村扱所江御出頭被下度委細者接眉ニ万縷可申上候也

明治八年第一月四日発ス　惣代借毛本郷村

水深柴原上横地横地草深　川島次郎右衛門
五木田小泉冨口求名
右村用掛御中

○記

井之内村
依願第九大区二小区副戸長　斎藤　逸作
差免候事
第九大区二小区　本須賀村
差免候事　海保善右衛門
水深邨
第九大区二小区　士族　鳥山　正城
申付候事
但し准等外六等候事
右之通本月十七日御達相成候条為心得此段相達候也
八年二月十八日　第九大区二小区扱所印
柴原小泉冨口求名
至急順達之事　右村々御掛中

（目録番号N1）

【史料37】御用記（第弐番）（堅冊）

本年県庁甲第十九号ヲ以御布達相成候種痘之義今般当小区内小松村ニ於テ御施行相成候ニ付テハ未痘并ニ種痘不感之者人名之儀兼而御達し雛形ニ照準シ無遺漏取調来ル十二日午前第八時迄当扱所江可被差出候

此段相達候也
但シ種痘所之儀者小松邨渡辺平四郎宅ニ候条来　ル十三日午前第七時
同所江出頭候様本人共江無
洩可申達候事
第八年三月九日　第九大区二小区扱所
水深小馬野水深馬渡
柴原小泉冨口求名
右村々用掛中

（朱書）　水深小馬野共
是ハ村々脚夫持参ニ付　中山　房利　印
用掛共承知印形いたし　水深　伊藤四郎左衛門
遣し候也　出県ニ付無印
柴原　平沢市左衛門　印
小泉　川島勘兵衛　印
冨口　高橋六郎兵衛　印
求名　並木角太郎　印

第九大区二小区
下横地村　小松村　下野村
借毛本郷村　新井堀村　下之郷村
五木田村　冨口村　小泉村
求名村　本須賀村　松ケ谷村
木戸村　蓮沼村　小借毛村

右村々旧幕廃（配）下采地之砌先納金其外下ヶ金願之　義兼而其筋及上申置候処、今般旧藩々ハ勿論旧　県より下ヶ渡候戊辰年租税米金皆済

目録可差出旨達有之ニ付毎一村右写弐冊ツヽ用掛并ニ戸長調印之上本紙相添可差出候事

一旧藩県共戊辰年皆済目録下ヶ渡シ無之向茂有之候ハヽ其年村方ゟ及上納候収納米金高別紙雛形ニ倣ヒ取調弐冊ツヽ前同様用掛始メ調印上納受取手形写証書相添可差出事

右之通戸長江相達大区扱所江取纏メ来ル三月廿五日限可差出此段相達候事

八年二月廿四日　　千葉県令柴原和代理
千葉県参事岩佐為春
第九大区
区長

雛形（略）

右之通御達相成候ニ付日限不誤様可差出、進達都合茂有之ニ付来ル三月廿日前差出候様可致候也

八年二月廿八日　　第九大区二小区扱所

下横地村
小松村
松ケ谷村
本須賀村
五木田村
小泉村
富口村
求名村
右村々用掛中

追而村名下江受印順達いたし周止より返戻可致候也

○　第八大区区長　　近藤　誠

（朱書）大急達

第八九大区区長申付候事
但シ准官等如故
第八大区副区長
斎藤四郎右衛門

第八九大区副区長申付候事
但シ准官等如故

明治八年三月三日　　千葉県

当取締所之義明十二日ゟ事務取扱候条比段及御達候也

第八九大区取締所在勤
明治八年三月十一日　　中属河野通朴

第九大区区長御中

当扱所之儀成東町江移転明十三日ゟ事務取扱候条被得其意区内村々江可被相達候也

第九大区扱所
二小区扱所

右之通被相達候条可得其意此段相達候也

第八年三月十二日　　第九大区二小区扱所 印

追而大至急順達周止より可被相返候也

柴原村小泉村冨口村求名村
右村々用掛中

○廻達　　二小区種痘所

草深村始

記

草深村拾人但名前附　五木田村六人

小泉村七人　冨口村九人

求名村（七人、氏名略）

右人名来ル十九日施術候条午前第八時種痘所江召連御出頭可被成候也

明治八年三月十四日　　二小区種痘掛

今井与兵衛

同世話掛

伊藤要右衛門

右各村

用掛中

（朱書）再而乍御手数早々順達終尾ゟ御返扱可被給候也

（目録番号　N２）

(b)　維新と旗本

旗本三宅氏の明治維新と在地

明治維新により徳川家はかろうじて静岡七〇万石の大名として存続したが、静岡藩に出仕できた旧幕臣は一部のみであった。旗本ら多くの旧幕臣の運命は『幕末維新変革史』（宮地正人　岩波書店）によると次の三つのケースとなった。

一、新政府に出仕し朝臣となる。

二、帰農商し農商身分となる。

三、静岡藩へ無禄移住する。

本書には、このなかの三の無禄移住の実例も紹介されているが、房総は旗本領の多かった土地であり、二の例も多く、旧領の村役人層が多くの関係を持った。その具体的実例については管見の範囲ではあるが、山武地域の真行寺村領主旗本阿部氏や松ヶ谷村領主旗本権太氏の例、筑紫敏夫氏の「旗本三嶋氏の明治維新（上）（下）―西上総の社会と文化―」（袖ヶ浦市史研究　第５・６号）などで知ることができる。

次に史料紹介するのは、二と三に関連する求名村の領主旗本三宅氏の場合である。「旧高旧領取調帳」によると幕末の旗本三宅光次郎は求名村に二〇〇石と山中村（現芝山町）四六石、西古内村（現多古町）一八一石、内野村（現香取市）六二石の知行地を持っていた。三宅光次郎の用人町田耕輔（耕助、耕作）と旧領村々の名主達との書簡のやりとりのなかに旧旗本の運命がうかがえる。

【史料38】旗本三宅氏願書外

(1)　三宅光次郎願書　　慶応四年六月

今般被　仰出候御書付面之趣奉恐入候、私義数代奉蒙　御厚恩誠ニ以難有仕合奉存候、就而者生活之道勘考仕御切米・御手当等之儀聊無御座候とも何卒如是迄御家臣之列ニ御差加被成下置度偏ニ奉願上候、以上

六月十三日　　三宅光次郎

(2)為御取替置申御請書之控　　慶応四年六月

今般王政御一新之折柄ニ付被　仰出候廉ニ付無録ニ而御奉公御願立被成候ニ付而者　殿様ニ茂礒と御当惑御心配被遊候余り是迄久睦之筋合ヲ以御知行所江御談事ニ相成、以来急変之節ハ御知行所之内西古内村江仮御住居被遊外御手段無之ニ付御内談有之奉恐入御請仕候上者日々御賄方御相続為御手当村々之内江御田地御買求メ置、尤茂其田地ニ付御年貢・諸夫銭等相納、残り徳米ヲ以年々御暮し方御賄被遊度旨、且仮御住居普請その外手伝夫人足等ニ至迄旧領之好身合ヲ以御世話申上候筈、且御田地之儀者当辰ノ暮限り急度御備ニ相成候様実意ニ御世話申上候、併村々役人并一同ゟ是迄之御恩報として土着之節ハ御普請金三十両ハ村々ゟ献金仕候積りニ申上候処　殿様ニも御安心御満足ニ被思召候、右議定為御取代一札奉差上候所、仍而如件

但し当辰十二月限り本文御田地御買土地之義ハ急度村内越石之地ヲ以御世話可申上候、万一差合候節ハ村役人所持之田地成共相当之割合ヲ以差上候様可仕候ニ付、夫迄兼而拝借金御取立無之、右冥加者当辰年分相納候而元金ヲ以御買入御世話申上候ニ毛頭相違無御座候

元御知行所　　慶応四辰年

六月　日

上総国武射郡
求名村
名主　安右衛門
山中村
名主　清兵衛

同断
下総国香取郡
西古内村
名主　新左衛門
外壱人
元名主　源之丞
内野村
元名主　伝右衛門

三宅光次郎様御内
町田耕輔様

(3)達書

慶応四辰年六月徳川御相続太（ママ）安亀之助様ゟ被　仰出候儀ニ付御地頭所ゟ知行村々御呼立ニ付御仕法替ニ相成り候趣意左ニ控置申候

但御地頭所様ゟ御下ケニ相成候本証文之儀者西古内村ニ而四ケ村一紙之分御預り申候、以上

口達書之事

今般王政御一新之折柄ニ付被　仰出候廉ニ付無録ニ而御奉公御願立被成候ニ付而者　殿様ニ茂礒と御当惑御心配被遊候余り是迄久睦之筋合ヲ以御知行所江御談事ニ相成、以来急変之節ハ御知行所之内西古内村江仮御住居被遊外御手段無之ニ付御内談有之奉恐入御請仕候上者日々御賄方御相続為御手当村々之内江御田地御買求メ置、尤茂其田地ニ付御年貢・諸夫銭等相納、残り徳米ヲ以年々御暮し方御賄被遊度旨、且仮御住居普請その外手伝夫人足等ニ至迄旧領之好身合ヲ以御世話申上候筈、且御田地之儀者当辰ノ暮限り急度御備ニ相成候様実意ニ御世話申上候、併村々役人并一同ゟ是迄之御恩報として土着之節ハ御普請金三十両ハ村々ゟ献金仕候積りニ申上候処　殿様ニも御安心御満足ニ被思召候、右議定為御取代一札奉差上候所、仍而如件

但し当辰十二月限り本文御田地御買土地之義ハ急度村内越石之地ヲ以御世話可申上候、万一差合候節ハ村役人所持之田地成共相当之割合ヲ以差上候様可仕候ニ付、夫迄兼而拝借金御取立無之、右冥加者当辰年分相納候而元金ヲ以御買入御世話申上候ニ毛頭相違無御座候

慶応四辰年　　三宅光次郎内

六月　日　　町田耕輔　印

元知行所

上総国武射郡

求名村

名主　安右衛門殿

外役人中

山中村

名主　清兵衛殿

同断

下総国香取郡

西古内村

名主　新左衛門殿

元名主　源之丞殿

内野村

名主　伝右衛門殿

外役人中

表書之通為取替置一札相違無之もの也

但是迄数代之知行所一新ニ相成候儀者甚々以悲歎不過之因而向来相互ニ子々孫々至迄知行之百姓共相成り地頭相成り候親睦忘却無之ため此一札互ニ不相戻永代為取替置もの也

御用人支配

三宅光次郎　印

親類立合

此時勤務仕并寄合

石川左内　印

（目録番号　A31-13）

【史料39】山中村　清兵衛書簡

求名村　山中村
御名主　安右衛門様　清兵衛
御中

以手紙啓上仕候、追々秋冷相増候得ハ益々御揃御壮健ニ御座可被遊珍重不斜奉賀上候、陳者御家族御差越ニ付私し戈料被仰聞候ニ而去ル廿四日江戸出立ニ而当廿六日佐原着いたし候処、御隠居様少々御病気故佐原船場川岸辺ニ止宿いたし居候間此段申上候、古内村江着之儀者何れ廿七、八日時分と相心得候間此折申上候、何れ其内着いたし候ハヽ後人足帰り候節又々書状奉差上候、右之段申上候迄、草々以上

八月廿六日出

佐原町船場
川岸辺宿

封

道中故
略封平ニ御差免可被下候

（目録番号　A7-15-3）

【史料40】山中村　清兵衛書簡

求名村　山中村
御名主　安右衛門様　清兵衛
人々御中

以手紙啓上仕候、追々秋冷相増候得ハ益々御揃御壮健ニ御座可被遊珍重不斜奉賀上候、陳者御地頭御引越ニ付過日愚状差上候処御病気ニ而組頭九郎兵衛殿御遣し被下候間御引越之儀者古内村ゟ工細申上候、扨亦御引越一条ニ付種々御談申上候義も有之間、来ル八日者日柄も吉日御座候間乍御苦労古内村江御出張之程奉願上候、義者古内村新左衛門殿ゟ申被遣候間左様御承知可被下候、内野もせひ八日ニ者出張いたし候心得ニ御座候由、何卒遠路之処御苦労ニ者候得共少々ニ者村つきニも相成べくとそんじ候間左様思召御出之程奉願上候、右之段草々以上

九月五日

封

（目録番号　A7-15-4）

【史料41】西古内村　新左衛門書簡

求名村　　西古内村
御名主　安右衛門様　　新左衛門
御中

前文御用可被下候、一昨日駿州表ゟ町田様着いたし、夫ニ付御談し申上度義有之候間、乍御苦労御出張可被下候、尤も十日過ニハ上之衆一同当地引払駿河江移住ニ相成申候、此段御知らせ申上候、先者用事計、尚貴面之節万々奉申上候、草々以上

巳三月七日　　古内村
新左衛門

求名村
安右衛門様

尚々略文之御許免可被下候、乍憚使之者江御聞取可被下候、以上

巳三月七日

（目録番号　A7-5-3）

【史料42】町田耕輔書簡

以手紙啓上仕候、追々薄暑之節ニ御座候得共弥御静栄被成御勤珍重之御儀ニ奉存候、扨先比中者永々御世話相成り千万難在奉存候、其後出立之節種々御叮嚀ニ御送り等村内一流（ママ）御苦労ニ奉存候、御前様ゟくれ〳〵よろしく申述候様被仰付候、就而者十三日御出立臼井泊り十四日行徳泊り十五日東京行徳がし永嶋屋江御上リ、夫ゟ御掛り調所江東京迄之着届罷越し候処、此　御東向ニ付道中筋人馬差支留ニ相成候ニ付麻布市兵衛町石川様御屋敷　御殿之内御拝借ニ而御止宿ニ相成り居候処、先月廿九日　御着連（ママ）ニ相成候間、十六日〆ニ而麻布出立ニ而品川泊り四日程ケ谷泊り十五日平塚宿泊り十六日小田原泊り十七日三嶋泊り八日吉原泊り九日四ツ時時分松岡村御着大安心致候、誠ニ道中も御隠居様ニ大難渋致し候、併皆々様ニも其外一流無別条御越候間御安心被下候様御頼申候、五左衛門義も追々延引ニ相成、誠ニ気之毒ニぞんじ候、是又弥左衛門も同様ニ付同村江宜敷御伝言可被下候、委細之義両人ゟ御聞可被下候、おちかとの、おまきとの江御前様ゟ被下御聞御請取可被下候

一花さし借用致候ニ付御返却致し候、御請取可被下候

一甲子之砌おんふひも七郎兵衛ゟ借用致し候よしニ付返却仕候、麁末ながら手拭御遣し可被下候、此ノ品麁末ながら進上致候、御笑留可被下候

一当十月私罷越し候節者何分集会之儀万端御世話之御事と存候、何分御頼申候、御序之節山中村江も御伝達可被下候、右調印書付石川様江も申上候処、委細御承知被成候、猶又此上共御頼被成度よし被仰聞候

一金五拾疋御遣し二相成候間、おぶすな様江御造酒御備へ可被下候様御頼被成候、尤道中安全御祷之御礼二御座候

右之段申上度委細之儀者両人ゟ御聞可被下候、先者用事而已早々如此二御座候、以上

一五左衛門、弥左衛門両人被遣万端御道中御都合宜万々御苦労二存候、就而者兼而御約定之通り両人之内壱人分者一日壱朱ツヽ之手当者村々二而割合差上候様対談有之候得共全日数十六日程延日二相成候間、其分者御下ケ被下候積り二付左様御承知可被下候、右二付左之通り認メ出し申候

日数三月十三日ゟ四月十五日迄三十三日　　金壱両

御見送り兼参り候者江

但一日壱朱ツヽ之割　十六日之延日之分　　金弐両壱朱

人足之分一人江

両人戻り路用　　金弐両弐分

但壱人二付壱分　　当五日路用両人分

右〆金五両弐分壱朱也

右金子両人江相渡し候間、村着之上御相談可被下候

一弥左衛門辛二五左衛門両人共道中一ト通ならず骨折相勤候間、態御挨拶御申聞可被下候、是又呉々も御前様ゟ被仰聞候

一昨九月以来村々丹情二而永々御家族方御世話申上誠二〳〵忝次第二思召くれ〳〵も光次郎様ゟ宜申述候様被仰付候間、一同江石川様　ゟも村々江宜申置候様被仰付候

右申上度如斯御座候、以上

四月十日認メ　　町田耕輔

名主　新左衛門様

（目録番号　A31-14）

【史料43】町田耕輔書簡

上総国武射郡
求名村　　従駿州松岡村
名主安右衛門様　　町田耕輔
平安

以手紙啓上仕候、追々薄暑之節御座候得共弥御壮栄被成御座珍重御儀奉存候、扨先頃中古内村江為御迎罷出候節［　　］之処御足労二奉存候、就而者昨年已来御家族様［　　］二相成千万忝次第二思召、右之段一同江御挨拶申置候様被仰付候間此段申候ハヽ又々此度御出立二付而も人足其外万端御心配之御事と御上二而も厚忝次第二思召、宜敷申通し候様被仰聞候、何れ私義も当秋又々参上種［々御世話カ］二相成何分宜様御頼申候、且又此度［御家カ］族方古内村三月十三日御出立二而十七日東京行徳がし御上り被成東京表四月三日御出立二而同月九日松岡村江御安着二相成候間御安心可被下候、右申上度如此御座候、早々頓首

四月［　　］日　　町田耕助

求名村
安右衛門様

尚以以下一同江御上ゟも御礼被申述可［被下候カ］種々申上度儀も御

座候得共何分［　　］候故何れ後便万々可申上候、随分時下御厭ひ可被成候、已上

（目録番号　P1-31）

【史料44】町田耕助書簡外

求名村　　西古内村
安右衛門様　　町田耕助
用事

以　手紙啓上仕候、追々向寒之砌御座候処、弥御壮栄被成御座珍重之御儀奉存候、扨当春兼而御約束之通り御集会御願申度、私義昨夕西古内村へ着仕候、就而者来ル廿三日同所へ御集合被下候様御伝申居候、併御遠方之処御苦労ニ者御座候得共何分御願申候、余者御立会之上拝凰萬々可申述候、右申上度如此御座候、以上

十月廿日

求名村　　古内村
御名主安右衛門様　　新左衛門
人々御中

一翰奉啓上仕候、追々寒冷之節ニ御座候得共其御表御家内様益御堅勝ニ被遊御座恐慶ニ奉存候、爾志受取候通り昨夕駿州表ゟ町田様御着ニ付当廿三日之会下集会仕度候間、乍御苦労拙村迄御光臨可被下候且又春中ハ不計御地江推参、種々御馳走ニ相成り何共難有仕合ニ奉存候、乍憚御家内様御一同江宜敷御伝言奉願上候、尚又御面上之節万々奉申上候、先者当用而已愚札如斯御座候、以上

巳十月廿日　　古内村
新左衛門　拝

求名村
元御名主
安右衛門様
外役人中様

巳十月廿日

（目録番号　R-68）

【史料45】町田耕作書簡

上総国武射郡　　駿州富士郡富士川以東
求名村ニ而　　吉原駅
御苗安右衛門様　　松岡村新町
無事　　町田耕作

一筆啓上仕候、追々暖気相催候得共其御地各様方御揃弥御安泰被成御座候、珍重御儀奉存候、次ニ小子方何れも無異儀罷在候間乍慮外御一休被成下候、扨其後者久々之御不（無カ）音ニ而種々世の中も相変シ三宅様ニも去ル巳年古内村ゟ駿地江御越ニ相成り、翌年大隠居様御死去其後若隠居御死去、殿様一人ニ相成候処当所ゟ二り計在比奈村と申所ゟ御嫁女御貰被成其後同所江御引越、私儀者矢張松岡村江相残り同村江帰農仕、村方人別ニ相成申候、右之次第者私儀三宅様江附添駿地江移住仕候処三宅様ニも追々御扶持方も相滅シ候間、去未年御暇相願金五拾両戴き是ニ而駿府行ニ之株相求度志願ニ而東京へ罷出相尋候処、口々沢山ニ有之念ヲ入慥成口々相心得相談取極メ候処、何れも譲株□□金百両又ハ百五十両□□極メ候得ハ百三十五両程之口取極メ金子相渡書類持帰駿致、静岡表御役所江願出候処御用無之種々願出候得共御取上無之、驚入直□□方へ掛合ニおよひ度同年東京江出府［致種カ］々掛合候得共いろ〳〵手違ニ而更ニ埒明不申、未年七月中旬［より申年カ］四月迄十ケ月程［　　］漸々廿両程取候次第誠ニ不仕合のミ［　　］り後扶持方ハ［　　］者損毛無録ニ相□九拾両程借用［　　］候ハヽ五人扶持丸［　　］之処其当も無之全ク、右之金高借財［　　］候処右様相変し［　　］々不安心ニ被存候間返済方厳敷申［　　］右大当惑仕、乍去捨［　　］候間夫々工夫仕家内中所持之衣類其外［売カ］払、持越候廿両ヲ以少々□□仕法相附口々月賦又者年賦等ニ相［定カ］漸々聞済候仕儀ニ而［実ニカ］一生前後ニも無之程大難ニ被存候、夫ゟ日々之暮方相立買米等致シ日々相送り是迄ハ相凌キ申候、尤兼而御存之通私手業之毛細工ハ駿地ニ而ハ多分入用之品ニ而至極はけ口も宜、是ニ而相助り申候、此業ニ而暮ハ相立候得者月賦壱両三分ツヽ年賦ハ七両ヲ両度之約定ニ者御座候得共規書之通りニも参り兼候得共追々方附追々仕法も相立候と存候処、石川様用人日夏嘉兵衛と申人当時不用ニ相成候間石川様本家江相返候間勢州旧亀山県江参り候ニ付同人ゟ借用之金子ハ元金四拾両利分拾両程都合五拾両之内月賦ニ而是迄凡半高相済候間残り金廿八両返金致呉様厳敷掛合候故無拠所ニ而借用廿八両日夏氏江皆済仕候、然ル処右金子ハ石川様其外諸々ニ而当借之儀ニ付急置工夫も致度種々勘考仕候処□無致方も無之、実ニ旅之身分ニ而相談致候方も無之三宅様も当時掛放れ尤御無心ケ間敷儀者申上兼実ニ当惑之折柄、甚以不本意ニ者御座候得共旧縁之好ミ合を以古内新左衛門殿勘之丞殿ヲ始メ外五人之衆江并内野村伝右衛門殿何れも連名ニ而右之次第委細相認メ去ル二月一日書面ニ而何分此度之廉々御察被成下御多力ヲ以御救方御願申候処、三月三十日同村勘之丞殿湯治ヲ兼愚宅江御尋被下両村ニ而集金拾九円御持参被成下、尤私ゟ相願候ニ者大金之事故御救金ニ而ハ御気之毒故無尽ニ而も宜、左候得者西国参り之節村内之者参り候ハヽ立寄掛金さし上候様ニも致度段申入候処無尽ニ而ハ却而遠路不都合之事ニ候得者上切ニ致度由ニ而誠ニ御無心□儀ニ而御気之毒ニ御座候得共此

儀ニ而大助り、是ゟハ手業ニ而□□移り暮方も相立難有仕合奉存候、就而
者早々返却仕残金之儀者何共申上兼候得共□□銘江何分ニも相願候、何
分ニも時節柄御気之毒ニ者御座候得共昔の好ミ合ヲ以御助方幾重ニも御縋
り申上候、［　　］儀古内江参り夫ゟ［　　］者御地江も罷越
御面談ニ而相願［　　］御座候処、何分遠［　　］諸入用等も
多分相掛り却而［　　］〳〵且又御迷惑［　　］不宜候間乍大略
書面ニ而申上候、［　　］察被成下此度［　　］も御無心折入而
者御願ニ御座候間、□□□助被成下候、右借□□□相済候ハヽ是ゟ者手
業ニ而押移□□大難も相逃れ何卒右様被申合御聞取之程平ニ奉願候、私儀
も右様之願申候得共誠ニ差掛り無余儀相願候儀ニ御座候、万事御察被下□
□恥入候次第ニ而御見下儀と存候得共艱難之差迫り無拠儀ニ御座候間不
悪御承引可被成下候、先者用事而已如此御座候、忽々謹言

駿州富士郡
松岡村
町田耕作

明治七戌年四月廿五日認メ

求名村
安右衛門様
九郎兵衛様
半左衛門様
参人御中

尚以折角御厭御座候様専一ニ奉存候、呉々も各様御家内方へもよろしく
奉希候、手前家内ゟも宜敷申上度申出候、扨又前文之儀者何分奉願候、
右当借残り之分御無心ニ相成候ハヽ実ニ相助幾重ニも御返書御待申居候、
書面被下候ハヽ別紙之通り御認メ被下候、御地江ハ東金ニユウヒン役所有
之候よしニ付東金在と相認メ申候、当所も吉原在松岡村ニ御座候間左様御
承知可被下候、此間古内村勘之丞殿被申候ニ者貴所様ニ者当時御無役ニ御
座候哉之よし承り当時之御役義者実ニ御骨折之儀と者存候、先者後便万々
可申上候

早々頓首

如斯駿州と□□□表江片書ニ御認メ被下候

駿州富士郡
吉原宿在
松岡村新町
町田耕作

封

日発ス

（目録番号　M2-27）

【史料46】町田耕作書簡

上総国武射郡　　駿州富士郡
求名村　　松岡村
御苗安右衛門様　　新町
同　九郎兵衛様　　町田耕作
同　半左衛門様
貴　下

一筆啓上仕候、秋暑之砌御座候処先以其御地右様方弥御安全被成御座珍重御儀奉存候、次ニ当方何れも相替候儀無御座候、御休意被成下候、扨去ル四月廿四日相認メ候書面ヲ以御難題筋相願定而御地江相届キ候儀と奉存候、其後御報日々御待申上候処、御返書無之又々御様子相伺度書面差出儀と存居候処、去ル五月中旬東京江出府可致用事出来候間、其節御地江罷越御面談ニ而委細相願度心胆ニ御座候処少々不都合之儀ニ付来ル九月歟十月頃迄相延し申候、就而者追々願之筋のひ〳〵ニ相成り当惑仕候間、此度御様子相伺度旁々書面ヲ以御願申上候、何卒此度之儀者幾重ニも御助情偏ニ御願申上候、扨又前便ニ委細申上候通り駿地江住移已来重々の大難ニ而必至と及難渋ニ何共申上兼候得共旧縁之好未合ヲ以古内并其御村方へ御縋り実以右様之儀者相願候筋合ニ者無御座候得共無余儀次第故あしからす御推察可被成下候、実ニ重々の不仕合故家内共分参ニ而も可致哉と種々工夫も致候得共何分田舎ニ而ハ致方も無之、勿論追々借財方も相減らし候間此場合ニ而仕法相立候ハヽ追々住計も相立可申と存候、無拠下総江相願御救金ニ而夫々江差向誠ニ以相助り候儀ニ御座候、右ニ付兼而相願置候儀者何卒各様方御評儀ヲ以御助情被成下候ハヽ追々借財方仕法相立往々手業ニ而押移り住計の目的者相立候儀と被存候、向後右様之儀相願候儀ニ者無之候間何卒此度之儀者御救方之儀幾重ニも御願申上候、尤私儀是非〳〵東京迄九十月頃ニ者出府致候ニ付其節参上貴面之上御願申上候而も宜御座候得共何分ニも只今之処ニ而八円程之金高ニ而石川隠居江相願候ハヽ先厳敷借財方ハ相済大安心仕候、石川隠居当時両人ニ而東京江寄留ニ而少々之商法ヲ相開キ、右故度々之書面ニ而実ニ当惑仕、勿論小子儀も此度之場合故石川并三宅ニ而余程之憐憫も有之候得共右金高も有之候ハヽ何と歟相頼ミ済方ニも相成り可申哉と存候得共実ニ致方無之、手業と而も暮方丈之事ニ而迚も借財方迄ニ者相届キ兼何卒此廉之儀者御助情ニ相成り御救方御願申上候、石川も当時大殿様隠居若殿様ハ駿地ニ而小子住居之近辺ニ御座候、左内様者東京ニ而商法相立候御無事被成候、已前と相替り此節ハ右借賦方厳敷催促ニ而実ニ困入候、私儀も去ル未年株式一条ニ付損毛百三四十円之儀、夫も貯之金子ニ有之候ハヽ宜御座候得共夫々江借用之金子損毛故工夫之附方も無之、日々手業ニ而取続キ追々御助力も有之旁々追々安心仕候、何分ニ而前便ニ而委細申上候次第各様御評儀ヲ以偏ニ御救方御願い申上候、尤此書面御届キ其上御内談被成下若御談事方折合兼候ハヽ右之次第御返事ニ而相伺度候、左候得共私儀東京迄参り候間御地江罷出御願申上候、就而者甚自由ケ間敷御座候得共九月上旬頃迄ニ其報相伺度是又御願申上候、右ニ付重々私宿所書委しく相認メ差上申候、先者用事御願申上度如斯御座候、怱々頓首

八月十六日　　町田耕作

求名村

御苗安右衛門様
同　九郎兵衛様
同　半左衛門様

尚以折角残暑御厭御座候様専一ニ奉存候、何れも御家内様方へ宜敷御伝言可被成下候、手前家内共ゟもよろしく申上度様申出候、呉々も前文之次第偏ニ御願申上候、若御便被成下候ハヽ私儀九月中旬頃ニ者東京江参り度と存居候間、九月差入迄ニ御左右相伺度是又申上候

御書面名宛相認メ置候
尤書面者ユウヒン会社江差出候方宜、私ゟハ東金在と相認メ差出申候

駿州富士郡吉原宿在　上サ
松岡村新町
町田　耕作と御認メ

（目録番号　C'-30）